

栗生武夫先生略年譜・著作目録 (十二訂稿)

- ・平成7(1995)年8月15日初版(初稿)作成
- ・令和6(2024)年6月9日(日)現在(十二訂稿)

[目 次]

(作成経緯)	2
【参考 HP】	3
【関連 HP】	7
各訂稿はしがき	9～18
[凡 例]	19
1 略年譜	21
2 著作目録	23
(1) 著書	23
(2) 編書	27
(3) 論説その他	28
3 参考	35
ア 追悼・回想	35
イ 関連	36
ウ 栗生武右衛門氏(厳父、1853～1936)関連	47
エ インターネット関係	51
オ 関係サイト紹介	52
① 栗生武夫先生『婚姻法の近代化』の中訳本について	52
② 『栗生武夫先生随筆拾遺』作成の思い出—『栗生武夫先生随筆拾遺—栗生武夫先生単行本未収録論稿集第一輯—』—	52
③ PDF版『栗生武夫先生随筆拾遺—栗生武夫先生単行本未収録論稿集第一輯—』	52
【人名索引抄】	53～58

(作成経緯)

- ・平成 7 (1995) 年 8 月 15 日初版 (初稿) 作成 (以降の経緯一部省略)
- ・HP 初載: 平成 16 (2004) 年 3 月 11 日 (木)  
五訂稿アップ (テキスト版) (爾後、六訂稿とは別に HP 上で補訂を繰り返す。)
- ・平成 29 (2017) 年 11 月 17 日 (金) 七訂稿作成 (PDF 版に変更)
- ・令和 3 (2021) 年 11 月 5 日 (金) 八訂稿作成 (レイアウト全面変更、一部補正)
- ・令和 4 (2022) 年 4 月 1 日 (金) 九訂稿 (一部補正) 作成の上、『CD 版 宮崎道三郎博士・小林宏先生・西村稔先生・高橋由利子先生略年譜・著作目録—【参考篇】【附篇】—ローマ法・法制史学者著作目録選 (第十五輯)—』 (令和 4 (2022) 年 4 月 1 日刊) に収録した。 (<<https://cir.nii.ac.jp/crid/1130010676870877056>>)
- ・(参考) 令和 4 (2022) 年 6 月 27 日 (月) 本 HP 別稿として、PDF 版『栗生武夫先生随筆拾遺—栗生武夫先生単行本未収録論稿集第一輯—』を掲載した。  
([https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/kuryu\\_zuihitsu\\_shui\\_002.pdf](https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/kuryu_zuihitsu_shui_002.pdf))
- ・令和 4 (2022) 年 6 月 29 日 (水) 十訂稿作成 (「五訂稿」以前の「はしがき」を追加するとともに、全体にわたって一部補正した。)
- ・令和 6 (2024) 年 3 月 20 日 (水) 十一訂稿作成 (【人名索引抄】を追加するとともに、全体にわたって一部補正した。)
- ・令和 6 (2024) 年 6 月 9 日 (日) 十二訂稿作成 (昨年末閉館の和田徹氏 HP「私立玉川用賀村中央図書館 (新館)」が令和 6 (2024) 年 6 月 5 日 (水) に再開が公表されたことから、全体にわたって一部補正した。)

\*\*\*\*\*

## 【参考 HP】

(令和 3 (2021) 年 11 月 15 日全面差替、同年 12 月 30 日、同 4 (2022) 年 6 月 29 日、同 6 (2024) 年 3 月 20 日各一部修正)

\* 法制史学会 HP (平成 14 (2002) 年 10 月 5 日公開、平成 24 (2012) 年 4 月 1 日移転)

〈<http://wwwsoc.nii.ac.jp/jalha/toppage.htm>〉 ⇒

(新) 〈<https://www.jalha.org/>〉

・ 〈<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E4%B8%8A%E5%B1%B1%E5%AE%89%E6%95%8F>〉

\* 全体 HP

〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/>〉

・ 「日本のローマ法」

〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/Romanist2003.htm>〉

・ 「法制史学者著作目録選 (WEB 版)」

〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/Historian2003.htm>〉

・ 本 HP 別稿: 宮崎道三郎博士略年譜・著作目録

〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/miyazaki001.pdf>〉

・ 本 HP 別稿: 池辺義象氏著作目録

〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/ikebe001.pdf>〉

・ 本 HP 別稿: 中田薫博士関係資料抄

〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/nakata001.pdf>〉

・ 本 HP 別稿: 内藤吉之助教授略年譜・著作目録

〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/naito001.pdf>〉

・ 本 HP 別稿: 金田平一郎博士略年譜・著作目録

〈<http://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/kaneda001.pdf>〉

・ 本 HP 別稿: 小早川欣吾先生略年譜・著作目録

〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/kobayakawa001.pdf>〉

・ 本 HP 別稿: 「小早川欣吾先生記念メダルによせて

一 小田輝子氏「叔父小早川欣吾の思い出」とともに一」

〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/odateruko.pdf>〉

・ 本 HP 別稿: 『小早川欣吾先生東洋法制史論集』収録論稿目次その他」

〈[https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/kobayakawa\\_toyohoseishi.pdf](https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/kobayakawa_toyohoseishi.pdf)〉

・ 本 HP 別稿: 牧英正博士著作目録等抄

〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/maki001.pdf>〉

・ 本 HP 別稿: 小林宏先生著作目録等抄

〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/kobayashi001.pdf>〉

・ 本 HP 別稿: 千賀鶴太郎博士著作目録

〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/senga001.pdf>〉

・ 本 HP 別稿: 戸水寛人博士著作目録

〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/tomizu001.pdf>〉

- ・本HP別稿：春木一郎博士略年譜・著作目録  
 〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/haruki001.pdf>〉
- ・本HP別稿：原田慶吉教授略年譜・著作目録  
 〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/harada2003.htm>〉
- ・本HP別稿：船田享二博士略年譜・著作目録  
 〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/funada2003b.htm>〉
- ・本HP別稿：田中周友博士略年譜・著作目録  
 〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/tanaka2003b.htm>〉
- ・本HP本稿：栗生武夫先生略年譜・著作目録  
 〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/kuryu001.pdf>〉
- ・本HP別稿：栗生武夫先生『婚姻法の近代化』の中訳本について  
 〈[https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/kuryu\\_chuhon.pdf](https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/kuryu_chuhon.pdf)〉
- ・本HP別稿：『栗生武夫先生隨筆拾遺』作成の思い出  
 — 『栗生武夫先生隨筆拾遺—栗生武夫先生単行本未収録論稿集第一輯』 —  
 〈[https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/kuryu\\_zuihitsu\\_shui.pdf](https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/kuryu_zuihitsu_shui.pdf)〉
- ・本HP別稿：PDF版『栗生武夫先生隨筆拾遺—栗生武夫先生単行本未収録論稿集第一輯—』  
 〈[https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/kuryu\\_zuihitsu\\_shui\\_002.pdf](https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/kuryu_zuihitsu_shui_002.pdf)〉
- ・本HP別稿：西本顯博士著作目録等抄  
 〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/nishimoto001.pdf>〉
- ・本HP別稿：久保正幡博士著作目録等抄  
 〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/kubo001.pdf>〉
- ・本HP別稿：井上周三教授關係資料抄  
 〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/inoue001.pdf>〉
- ・本HP別稿：上山安敏先生著作目録等抄  
 〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/ueyama001.pdf>〉
- ・本HP本別稿：筧克彦博士略年譜・著作目録  
 〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/kakei001.pdf>〉
- ・本HP別稿：近藤英吉博士略年譜・著作目録  
 〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/kondo001.pdf>〉
- ・本HP別稿：増田福太郎博士關係資料一斑  
 〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/masuda001.pdf>〉
- ・本HP別稿：山崎丹照先生著作目録  
 〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/yamazaki001.pdf>〉
- ・本HP別稿：戴炎輝博士略年譜・著作目録  
 〈[https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/Tai\\_Yen-hui001.pdf](https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/Tai_Yen-hui001.pdf)〉

\*\*\*\*\*

\* 和田徹氏HP「私立玉川用賀村中央図書館（新館）」（令和5（2023）年12月31日閉局）

〈<http://home.q02.itscom.net/tosyokan/>〉

・ 春木一郎電子文庫（和田徹氏寄贈図書）

〈<http://home.q02.itscom.net/tosyokan/haruki.htm>〉

・ 原田慶吉電子文庫（和田徹氏寄贈図書）

〈<http://home.q02.itscom.net/tosyokan/harada.htm>〉

・ 栗生武夫電子文庫（和田徹氏寄贈図書）

〈<http://home.q02.itscom.net/tosyokan/kuryu.htm>〉

・ いろいろ電子文庫

〈<http://home.q02.itscom.net/tosyokan/iroiro.htm>〉

・ PD 図書室（「梅雨空文庫」のデータを整理してまとめたもの）

〈<http://books.salterrae.net/about/tuyuzora.html>〉

（註）早くには「船田享二電子文庫」の平成22（2010）年開設予告もなされていた（平成14（2002）年12月14日初出か?）が、その後平成18（2006）年6月3日に「2006/06/03 船田享二電子文庫計画中止」の表示が出た。

.....

\* 先に閉館した上記和田徹氏 HP「私立玉川用賀村中央図書館（新館）」は、令和6（2024）6月5日（水、公開公表日）に再開された。

〈<http://tosyokan.my.coocan.jp/>〉

・ 春木一郎電子文庫（和田徹氏寄贈図書）

〈<http://tosyokan.my.coocan.jp/haruki.htm>〉

・ 原田慶吉電子文庫（和田徹氏寄贈図書）

〈<http://tosyokan.my.coocan.jp/harada.htm>〉

・ 栗生武夫電子文庫（和田徹氏寄贈図書）

〈<http://tosyokan.my.coocan.jp/kuryu.htm>〉

・ いろいろ電子文庫

〈<http://tosyokan.my.coocan.jp/iroiro.htm>〉

・ 梅雨空文庫

〈<http://tosyokan.my.coocan.jp/tuyuzora.htm>〉

（令和6（2024）年6月9日追加）

\*\*\*\*\*

\* 「西村稔先生（1947～2019）年譜・著作目録（阪本尚文編）（初版）（2020（令和2）年4月現在）」⇒爾後逐次改訂中⇒（最新版：令和5（2023）年11月現在第8稿掲載）

〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/>〉⇒

〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/nishimura001.pdf>〉

(註) 本著作目録は、阪本尚文編『Aún aprendo それでもまだ学ぶぞ——西村稔先生追悼集』（私家版、2020（令和2）年2月28日刊（福島大学学術機関情報リポジトリ所収〈<http://hdl.handle.net/10270/5154>〉））に収録した「西村稔先生年譜・著作目録」に逐次修正を加えつつあるものである。

\*\*\*\*\*

## 【関連 HP】

(令和 3 (2021) 年 11 月 15 日全面差替、同年 12 月 30 日、同 4 (2022) 年 6 月 29 日、同 6 (2024) 年 3 月 20 日各一部修正)

- ・法制史学会: <<https://www.jalha.org/>>
- ・国立国会図書館: <<https://www.ndl.go.jp/>>
- ・国立国会図書館デジタルコレクション <<https://dl.ndl.go.jp/>>
- ・国立国会図書館個人向けデジタル化資料送信サービス (個人送信) (令和 4 (2022) 年 5 月 19 日開始)  
<[https://www.ndl.go.jp/jp/use/digital\\_transmission/individuals\\_index.html](https://www.ndl.go.jp/jp/use/digital_transmission/individuals_index.html)>  
(下記: 令和 5 (2023) 年 1 月 26 日追加)  
<[https://www.ndl.go.jp/jp/news/fy2022/221202\\_01.html](https://www.ndl.go.jp/jp/news/fy2022/221202_01.html)>  
「ホーム>新着情報>ニュース> 「国立国会図書館デジタルコレクション」をリニューアルします (令和 4 年 12 月 21 日)  
「2022 年 12 月 2 日「国立国会図書館デジタルコレクション」をリニューアルします (令和 4 年 12 月 21 日)」  
国立国会図書館は、令和 4 年 12 月 21 日に、国立国会図書館デジタルコレクションをリニューアルします。リニューアルにより、全文検索可能なデジタル化資料が増加するとともに、閲覧画面が改善されます。詳しくはプレスリリースをご覧ください。」
- ・ (下記: 令和 6 (2024) 年 1 月 1 日追加)  
「2024 年 1 月 5 日 新「国立国会図書館サーチ」を公開しました」⇒  
「国立国会図書館は、従来のウェブサービス「国立国会図書館検索・申込オンラインサービス (国立国会図書館オンライン)」及び「国立国会図書館サーチ」を統合・リニューアルし、令和 6 年 1 月 5 日 (金) から、新「国立国会図書館サーチ」としてサービスを開始しました。」  
<[https://www.ndl.go.jp/jp/news/fy2023/240105\\_01.html](https://www.ndl.go.jp/jp/news/fy2023/240105_01.html)>
- ・国立国会図書館次世代デジタルライブラリー  
<<https://lab.ndl.go.jp/service/tsugidigi/>>
- ・CiNii: <<https://ci.nii.ac.jp/>> ⇒ <<https://cir.nii.ac.jp/>> (【[2022] 4/18 更新】CiNii Articles の CiNii Research への統合について)、<<https://ci.nii.ac.jp/books/>>
- ・朝日新聞クロスサーチ (令和 4 (2022) 年春「聞蔵Ⅱビジュアル」を全面リニューアル)  
<<http://www.asahi.com/information/db/2for1.html>>
- ・ヨミダス歴史館  
<<https://database.yomiuri.co.jp/about/rekishikan/>>
- ・毎索 (マイサク)  
<<http://xn--https-ft8kv51h//mainichi.jp/contents/edu/maisaku/>>
- ・雑誌記事索引集成データベース「ざっさくプラス」(令和 5 (2023) 年 1 月 26 日追加)  
<<http://info.zassaku-plus.com/>>

< [https://zassaku-plus.com/service/login?return\\_url=https%3A%2F%2Fzassaku-plus.com%2F](https://zassaku-plus.com/service/login?return_url=https%3A%2F%2Fzassaku-plus.com%2F)>

\*\*\*\*\*



## 十二訂稿はしがき

先に「十一訂稿はしがき」で閉館について言及した和田徹氏 HP「私立玉川用賀村中央図書館(新館)」が、6月5日(水、公開公表日)に再開された〈<http://tosyokan.my.coocan.jp/>〉ことから、新たに十二訂稿を作成した。

令和6(2024)年6月9日

編者謹誌

\*\*\*\*\*

## 十一訂稿はしがき

令和5(2023)年12月24日偶々知人から「栗生武夫電子文庫」、「春木一郎電子文庫」等を収載していた和田徹氏の貴重なサイト「私立玉川用賀村中央図書館(新館)」〈<http://home.q02.itscom.net/tosyokan/>〉に「告知 2023年12月31日をもって閉館」(2023/12/12 閉館告知)が出ている旨を教えられ、吃驚仰天した。寔に残念で寂しいことであった。この「私立玉川用賀村中央図書館(新館)」は旧館が平成13(2001)年11月11日開設、同15(2003)年5月10日閉鎖、即新館に移転とのことであったので、二十数年間公開されてきたことになる。今は、ただただ同サイトの長期にわたる大変な御寄与、御貢献に敬服と深謝の念あるのみである。

これを承け、やや遅ればせながらではあるが、十一訂稿を作成することとした。現在栗生武夫先生関係著作の多くは国立国会図書館によりインターネットで読めることから、今回その一部のURLを追記したが、いずれは全部記載するようにしたい。

なお、本稿は電子版であることに鑑み、今後は黒赤2色使用にすることとした。

令和6(2024)年3月20日(木)

編者謹誌

\*\*\*\*\*

## 十訂稿はしがき

九訂稿を一、二修正して十訂稿とした。併せ、従来省略していた「五訂稿」以前の「はしがき」をも追加した。今後も更に補正に努めることとしたい。

令和 4 (2002) 年 6 月 29 日

編 者 謹 誌

(参考) 令和 4 (2022) 年 6 月 27 日 (月) 本 HP 別稿として、PDF 版『栗生武夫先生随筆拾遺—栗生武夫先生単行本未収録論稿集第一輯—』を掲載した。

[〈https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/kuryu\\_zuihitsu\\_shui\\_002.pdf〉](https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/kuryu_zuihitsu_shui_002.pdf)

\*\*\*\*\*

### 九訂稿はしがき

八訂稿を一、二修正して九訂稿とした。更に補正に努めることとしたい。

令和 4 (2002) 年 4 月 1 日

編 者 謹 誌

(『CD 版 宮崎道三郎博士・小林宏先生・西村稔先生・高橋由利子先生略年譜・著作目録—【参考篇】【附篇】—ローマ法・法制史学者著作目録選 (第十五輯)—』(令和 4 (2022) 年 4 月 1 日刊) に収録した。〈<https://cir.nii.ac.jp/crid/1130010676870877056>〉)

(参考) 令和 4 (2022) 年 6 月 27 日 (月) 本 HP 別稿として、PDF 版『栗生武夫先生随筆拾遺—栗生武夫先生単行本未収録論稿集第一輯—』を掲載した。

[〈https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/kuryu\\_zuihitsu\\_shui\\_002.pdf〉](https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/kuryu_zuihitsu_shui_002.pdf)

\*\*\*\*\*

### 八訂稿はしがき

本「栗生武夫先生略年譜・著作目録」は、この種目録の最初として、平成 7 (1995) 年夏に作成したものであることから、形式その他に問題があつて、その後に作成したものと早く平仄を合わせたいと思つていたが、荏苒今に至つた。今回、多少なりとも整合性を取るべく、二、三修正、加筆を施した。今後も更に改訂に努めたく思つているので、よろしく御示教の程お願いいたす次第である。

本目録のそもそもは、今を去る五十余年もの昔上山安敏先生の御指導をいただいて作成したものに遡る。往時を想起し先生の御厚情にはただただ感謝するばかりであるが、悲しい哉先生には去る 10 月 28 日忽焉として逝かれた。謹んで御冥福をお祈りいたしております。

令和 3 (2001) 年 11 月 5 日

編 者 謹 誌

\*\*\*\*\*

## 七訂稿はしがき

「法制史学者著作目録選 (WEB 版)」掲載のテキスト版「栗生武夫先生 (1890～1942)」  
〈<http://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/kuryu.html>〉は、「著作目録 (五訂稿) (平成  
15 年 9 月 1 日現在)」を基にして、補訂を繰り返し (補訂履歴: 平成 18 年 4 月 6 日、平成  
19 年 8 月 9 日、11 月 25 日、12 月 10 日、12 月 21 日、平成 20 年 3 月 1 日、3 月 17 日、  
8 月 17 日、8 月 25 日、平成 21 年 2 月 16 日、4 月 11 日、6 月 13 日、平成 22 年 10 月 12  
日、平成 23 年 4 月 3 日、4 月 17 日、10 月 31 日、12 月 18 日、平成 24 年 2 月 19 日、平  
成 26 年 5 月 20 日、7 月 16 日、11 月 25 日、平成 27 年 1 月 24 日、7 月 25 日)、最終的  
には「(最新補訂平成 27 年 7 月 25 日)」現在で今に至った。

平成 19 (2007) 年作成の「六訂稿」との関連については、冒頭註で、「(註): 平成 19  
(2007) 年 1 月 1 日に、別途、冊子版、CD 版で、「栗生武夫先生略年譜・著作目録 (六  
訂稿)」を作成した (『栗生武夫先生・小早川欣吾先生・戴炎輝博士・小林宏先生・山崎丹  
照先生略年譜・著作目録 (二訂版) —内藤吉之助教授・金田平一郎博士著作目録 (初稿)  
— —ローマ法・法制史学者著作目録選 (第 8 輯) —』(平成 19 年 1 月 1 日刊。栗生武夫  
先生分は六訂稿))。しかるに、本稿は、諸般の事情により、平成 15 年 9 月 1 日作成の五  
訂稿を適宜補訂しているものであって、上記六訂稿を基にしているものでないことをお断  
りしておく。(平成 19 年 8 月 9 日追加)」と記したところである。

しかるに、今般、諸般の事情により、「法制史学者著作目録選 (WEB 版)」掲載のもの  
のうちテキスト版でアップしたままになっているものを、他との整合性をとるためすべて  
PDF 版と差し替えることにしたことから、栗生武夫先生分についても、新たに上記六訂稿  
を基にして七訂稿を作成し、PDF 版で掲載することとした。

すなわち、本七訂稿は、平成 19 (2007) 年 1 月作成の六訂稿以降に気がついたものを  
中心に多少の改訂を加えたものである。追加分については追加年月日を記載し、六訂稿以  
降のものであることを明示した。国立国会図書館のデジタル資料についてはその後名称変  
更等がなされているが、諸々の制約で本稿ではそれを反映させていないことをお断りして  
おく。いずれ修正の予定でいる。

前回改訂後早くも十年余の歳月を閲し、本来ならば更に精査すべきであったが、今回は  
急に思い立って差し替えたため、ほとんどなにもできなかったことを甚だ遺憾に思う。出  
来るだけ早く八訂稿作成に向けて努力したいと考えているので、御示教いただければ幸い  
である。

抑々本稿作成の発端は、五十年もの昔御理解と御示唆を賜った上山安敏先生の御厚情に  
拠る。改めてここに先生に厚く御礼申し上げるものである。

平成 29 (2017) 年 11 月 17 日

編者謹誌

\*\*\*\*\*

### 六訂稿はしがき

五訂稿作成から三年余りを経たが、この間の各種電子資料の充実はめざましいものがある。ここに、これらを利用して補正した六訂稿を作成した。併せ、この機会に、懸案であった五訂稿の縦書きを横書きに変換した。しかし、初稿作成よりかなりの歳月がたつのに、今回も全面的な見直しが出来なかったことに加えて、三訂稿、四訂稿に付けた「栗生武夫先生メモ」の改訂再録を、五訂稿と同様見送らざるを得なかったことを遺憾に思う。

今次改訂に当たっても、上山安敏先生から格別の御高配を賜った。誌して、深甚の謝意を表する次第である。今後も更に改訂に努める所存であるので、御示教の程をお願い申し上げるものである。

平成 19 (2007) 年 1 月 1 日

編 者 謹 誌

(「栗生武夫先生略年譜・著作目録 (六訂稿)」⇒『栗生武夫先生・小早川欣吾先生・戴炎輝博士・小林宏先生・山崎丹照先生略年譜・著作目録 (二訂版) —内藤吉之助教授・金田平一郎博士著作目録 (初稿) —ローマ法・法制史学者著作目録選 (第 8 輯) —』(平成 19 年 1 月 1 日刊。栗生武夫先生分は六訂稿。))

\*\*\*\*\*

### 五訂稿はしがき

平成 10 (1998) 年 2 月 15 日に四訂稿を出してから、五年余りが過ぎた。早く改訂をと考えていたが、なかなか取りかかれず、今般、漸くその後の調べを基に補正した五訂稿を作成した。これとて未だ不十分なものであり、今後も更に補訂に努めたいと考えているので、よろしく御示教の程お願い申し上げる次第である。

四訂稿までは、上山安敏先生、岩野英夫先生はじめ多くの先生方に御指導をいただいていたが、今回は、両先生にはもとより続けてお教えいただくとともに、加えて、小山貞夫先生、平田公夫先生、そして『恒藤恭とその時代』(日本エディタースクール出版部、平成 14 年 5 月 30 日刊) の著者である関口安義先生から、貴重な御教示を賜った。ここに誌して深甚の謝意を表する。

また、四訂稿以降の特筆すべきこととして、「栗生武夫電子文庫」を有する和田徹氏のホームページ「私立玉川用賀村中央図書館 (新館)」(旧館は、平成 13 年 11 月 11 日開設、同 15 年 5 月 10 日閉鎖、新館に移転) が公開されたことがあげられる。ただただ敬服するばかりである。ぜひとも御参照願いたい。

(「私立玉川用賀村中央図書館 (新館)」〈<http://home.q02.itscom.net/tosyokan/>〉)

平成 15 (2003) 年 9 月 1 日

編 者 謹 誌

(『栗生武夫先生・小早川欣吾先生・戴炎輝博士略年譜・著作目録 (新版) 〔附〕『小早川欣吾先生東洋法制史論集』 (平成 8 年 6 月 25 日刊) 補遺 (第一輯) —ローマ法・法制史学者著作目録選 (第一輯) —』 (平成 15 (2003) 年 9 月 1 日刊。栗生武夫先生分は五訂稿。))

\*\*\*\*\*

#### 四訂稿はしがき

栗生武夫先生の略年譜及び著作目録については、先年、恩師上山安敏先生の序文を戴いて、『栗生武夫先生・船田享二博士・小早川欣吾先生著作等目録稿 (三訂版)』(平成 8 (1996) 年 2 月 1 日刊) 中でまとめたが、なおかなりの過誤、脱漏があり、早く四訂版を作成したいと考えていた。

しかして、先に上記『目録稿 (三訂版)』のうち、船田享二博士分については、四訂稿を『日本ローマ法学四先生略年譜・著作目録 (初稿)』(春木一郎博士・原田慶吉教授・田中周友博士・船田享二博士) (初版: 平成 9 (1997) 年 3 月 27 日刊、改訂版: 平成 10 年 3 月 1 日刊) 中で、また、小早川欣吾先生分については、四訂稿を『小早川欣吾先生略年譜・著作目録 (四訂稿)』(平成 9 (1997) 年 10 月 20 日刊) 中で、それぞれ作成した。

このため、栗生武夫先生分についても、その四訂稿を単独で作ることとした。ただし、最近作成している一連のローマ法、法制史関係諸先生のそれ (本書 119 頁以下参照) に倣い、表題を『栗生武夫先生略年譜・著作目録 (四訂稿)』に改めた。四訂稿にしてもなお不十分な点が多い。更に補正に努めたいと考えているので、よろしく御示教賜れば幸甚である。

四訂稿上梓に当たっても、上山安敏先生の御厚意で、先生の前記序文を巻頭に再掲させて戴けた。謹んで厚く御礼申し上げる次第である。上山先生には、『目録稿 (改訂版)』(平成 7 年 11 月 1 日刊) 作成時に、「目録からもっと進んで、一書に纏めるように」との有難い御激励を戴いたが、今なお道遠きことを恥じざるを得ない (註: 四訂稿所収の「栗生武夫先生メモ」はその端緒である。)。更に精進を重ねたいと思う。

なお、本書は、栗生先生のみであるが、諸般の事情により、前記『栗生武夫先生・船田享二博士・小早川欣吾先生著作等目録稿 (三訂版)』(平成 8 (1996) 年 2 月 1 日刊) 所掲の各版はしがきを敢えて掲載させて戴いたことをお断りしておく。

平成 10 (1998) 年 2 月 15 日

於安東仮寓

編者誌す

(『栗生武夫先生略年譜・著作目録(四訂稿)』(序文(再掲): 上山安敏先生。平成 10(1998)年 2 月 15 日刊)

\*\*\*\*\*

### 三訂版増補版はしがき (三訂稿)

三訂版刊行後、特に船田享二博士関係を中心に多くの遺漏が判明したので、早く四訂版を作成すべきところであるが、諸般の事情により、これはただちには不可能である。このため、三訂版の正誤補缺を追加することにより、取りあえず、それまでのつなぎとする。敢えて「三訂版増補版」と名付ける所以である。

なお、本目録稿関連作業の一つとして、昨年 6 月、久保正幡先生、牧英正先生、上山安敏先生、中澤巷一先生、小林宏先生の御指導を受けて、竹内英治氏とともに、『小早川欣吾先生東洋法制史論集』(常盤印書館、平成 8(1996)年 6 月 25 日刊)を刊行した。併せて、御参照戴ければ幸いである。

平成 9(1997)年 1 月 15 日

文永 11 年蒙古勢が占拠せしと

いう麓原山元寇史跡の麓にて

編者誌す

(『栗生武夫先生・船田享二博士・小早川欣吾先生著作等目録稿(三訂版増補版)』(平成 9(1997)年 1 月 15 日刊)

\*\*\*\*\*

### 三訂版はしがき (三訂稿)

先に初版(平成 7 年 8 月 15 日刊)、つづいて改訂版(同年 11 月 1 日刊)を出したが、多くの方々から貴重な御教示、御指摘を賜ったことは、大変有難く、まことに感謝にたえないところである。

これらの御教示により、改訂版についても未だ正すべきところが多々あることがわかり、また、本目録稿作成に当たって多大の恩恵を蒙った東京都立中央図書館も、大改装のため、昨年 12 月 1 日より本年 5 月末まで休館となり、これ以上の調査は当面不可能となったので、ここに三訂版を作成しておくこととした。

三訂版においては、本目録稿作成に関し久しく書きためてきたメモを整理し、補篇(註:

「栗生武夫先生メモ」)として附した。当初メモ本文と関連原典資料とを一緒にして、別に本目録稿姉妹版としての資料集を出す予定でいたが、様々な意味から余裕がなくなったため、この様な形にせざるを得なかったことをお断りしておく。

試行本2冊(初版、改訂版)の段階を経て、今般三訂版を刊行するに当たり、恩師上山安敏先生(現法制史学会代表理事)に序文を懇請いたしたところ、忝くも過分の御玉稿を賜った。有り体にいえば、栗生先生、船田博士及び小早川先生に対する上山先生の御高見を収めさせていただけたことのみが、本目録稿刊行の意義ではないかと思う。先生の御好意に対しては感激この上ない。ここに謹んで深甚の謝意を表する次第である。今後一層の精進を重ねていく所存でいる。

また、中澤巷一先生には学生時代以来今日まで久しく一方ならぬ御指導をいただいているが、近年では、中澤先生と御同門であられるとの御縁で、小林宏先生にも親しくお教えを受けている。小林先生には、本目録稿作成に当たり、各般の御配慮を頂戴したが、特に、小早川先生について、その研究の重要性の御指摘を受け、御懇切な御教示を賜った。加えて、現在小林先生の下で日本法制史を専攻しておられる國學院大學大学院法学研究科の竹内英治氏には、同先生を通じて、初版以来文献調査、収集等に大変お世話になった。一介の私人にすぎない私にとって、小林先生の御理解と竹内氏の御援助なくば、これだけのものでも作成は不可能であったことを思う時、ただただ感謝の念で一杯である。

また、三訂版においても、引き続き、山形博、橋本昭及び富澤弘親の三氏に格別の御配意を賜った。ここに謹んで厚く御礼申し上げたい。

いつまでも目録稿の「稿」がとれないのは、甚だ遺憾なことであるが、今後とも補正に努めたいと考えているので、よろしく御示教の程お願い申し上げる次第である。

平成8(1996)年1月1日

御殿場妙法寺に詣で、冬の富士の

高嶺を仰ぎし日

編者誌す

(『栗生武夫先生・船田享二博士・小早川欣吾先生著作等目録稿(三訂版)』(平成8(1996)年2月1日刊。上山安敏先生序文あり。)

(「二訂版」は資料作成はしたものの刊行に至らなかった。)

\*\*\*\*\*

### 改訂版はしがき(改訂稿)

先般、初版(平成7年8月15日刊)を出したところ、すぐいろいろと不備な点が目立ち、かつ、二、三の方々より、内容その他に対し、詳細な御批判、御指摘を受けたので、これらの御教示等を踏まえて、改めて作成し直したのが、本改訂版である。これまた極めて不十分なものであるが、御参考に供することができれば幸いである。

以下、私事にわたって恐縮ではあるが、本目録稿作成に当たっての思い出を一つ付け加えさせていただくことを御容赦願いたい。

学生時代、何故か関心あって、栗生武夫先生、小早川欣吾先生のことを調べたことがあり、そのまとめの意味で、恩師に御無理をお願いして、昭和 45 (1970) 年 1 月末のある夜、末川博博士を岡崎東福の川の御尊宅にお訪ねしたことがあった。博士の大学卒業同期に当たる栗生先生のことなど詳しくお聞かせいただいたはずではあるが、その時何をお聞きしたのは、情けないことに、すっかり忘却の彼方にある。唯一覚えていることは、大正末年 (註: 大正 14 (1925) 年 4 月入学) の入学者選考の教授会で、大石義雄 (弘前高)、小早川欣吾 (山口高) の両氏が入学されるに関し、「大石良雄」、「金吾中納言」のことと絡めて一しきり話題になったということ、博士が愉快地話して下されたことである。

このような意味で、たまたま船田享二博士の目録作成の件を依頼されたのを契機として、栗生先生、小早川先生の御著作目録をも、今回作らせていただいたことは、多年両先生に私淑してきた私にとって、大変幸せなことであった。

この間、多くの方々から貴重な御教示を賜ったことに対し、厚く御礼申し上げる次第である。特に本改訂版作成に当たっては、初版に引き続き、富澤弘親氏に大変お世話になったのをはじめ、新たに、山形博氏、橋本昭氏に格別の御配慮を賜ったことを深く感謝する次第である。

今後ともなお補正に努めたいと考えているので、よろしく御叱正賜れば幸甚である。

平成 7 (1995) 年 11 月 1 日

「世紀から置きっ放しにされ」ていたと  
いう田園の憂鬱由縁の地」碑の辺にて  
編者誌す

(『栗生武夫先生・船田享二博士・小早川欣吾先生著作等目録稿 (改訂版)』(平成 7 (1995) 年 11 月 1 日刊)

\*\*\*\*\*

### 初版はしがき (初稿)

何事をするについても、書誌等の所謂工具書を整備することが必要であることはいまでもない。法制史又は法史学に関しても、既にかんがりの有用な文献目録等が出されている。ただ、個々人の業績についていうと、様々な理由で個人記念論文集や個人記念誌が刊行されていない方の場合、その業績の全貌をつかむことは、極めて難しい。

ここに取り上げた栗生武夫先生、船田享二博士、小早川欣吾先生の御三方については、いずれも著名な法制史学者又はローマ法学者であるが、この典型的な例に属するのではないかと思料される。栗生、小早川両先生は比較的早く逝かれ、また、船田博士は戦後外地より引き揚げられて一時期代議士になられたこともあり、いずれも直接の後継者といえる



方がいないのではないかと思われる。このため、その業績については、主要リスト的なものを除き、全体的な著作目録は存在しないのではないかと考えられる。

平成3(1991)年春頃だったか、知人より、余程「暇人」と思われてか、何に使うのか知らないが、船田享二博士の著作目録を作成して欲しいとの依頼を受けた。その時は、二つ返事で引き受けたものの、着手してみると、いささか煩瑣なため、一寸やそとの時間では到底無理と考えて中断して以来、夏休みも終わりに近づいたのに宿題をしていない小学生の気分を久しく抱き続けてきた。

しかるに、この3月来、思わぬことが出来たので、思い立って、この機会に、多年の課題を片付けておくこととした。依頼する人がいる位だから、やはり作成する意義は十分にあると考えたわけである。

そこで、栗生先生、小早川先生、船田博士の順で、取りあえずの目録を作成し、その都度識者の御教示を仰いだが、今般、これらを基に、改めて一本にまとめてみたのが本目録稿である。

この場合、折角作成するのであれば、より有用なものにしたいと考え、十年程前にある先生の御還暦記念として刊行された書物の特製私家版に附されたという同先生御著作目録にできるだけ倣うこととした。同目録は、極めて懇切周到に作成されており、大変貴重であると思われたからである。

ただし、本目録稿作成については、御三方それぞれの御業績の検索に便ならしむるようにしたため、三目録間に整合性がとれていない。今取りまとめるに当たっては、当然そのあたりを調整し、少なくとも平仄の一致をみるようにしなければならないが、今はその余裕も気力もない。取りあえず別々のものを綴じ合わせただけにすぎない。

加之、現在与えられている条件下では、遺漏なきを期し難いことはもとより、孫引ただけで直接確認できなかったものも少なくない。これらについては、他日補正に努めたいと考えているので、厳しい御叱正を賜れば幸甚である。

最後になって恐縮であるが、本目録稿作成に当たっては、多くの方々より御教示、御支援を賜ったことに感謝したい。就中、文献調査につき、原田一明先生、竹内英治氏、田中進氏、また、原稿作成等につき富沢弘親氏、小川英機氏に格別の御配慮を賜った。ここに特に誌して厚く御礼申し上げる次第である。

平成7(1995)年8月15日

残暑厳しき武州荏田宿界限にて

編者誌す

(『栗生武夫先生・船田享二博士・小早川欣吾先生著作等目録稿』(平成7(1995)年8月15日刊)



## 〔凡 例〕

1 本十二訂稿までの刊行日時は、次のとおりである。

初稿：平成 7（1995）年 8 月 15 日刊、改訂稿：平成 7（1995）年 11 月 1 日刊、二訂稿：資料作成のみで未刊、三訂稿：平成 8（1996）年 2 月 1 日刊、四訂稿（同輯より栗生武夫先生単独冊子）：平成 10（1998）年 2 月 15 日刊、五訂稿：平成 15（2003）年 9 月 1 日刊、六訂稿：平成 19（2007）年 1 月 1 日刊、七訂稿：平成 29（2017）年 11 月 15 日刊、八訂稿：令和 3（2021）年 11 月 5 日刊、九訂稿：令和 4（2022）年 4 月 1 日刊、十訂稿：令和 4（2022）年 6 月 28 日刊、十一訂稿：令和 6（2024）年 3 月 20 日刊、十二訂稿：令和 6（2024）年 6 月 9 日刊（本稿）

2 栗生武夫先生（1890～1942）の略年譜とともに、著作を、1 著書、2 編書、3 論説その他に分けて収載した。

3 論説その他中最末尾の数字は、著書中の当該数字の著作に所収を示す。ただし、収録に当たり表題変更、改訂が加えられているものが多々あるが、ここでは、一部を除き、断っていない。

4 著書、編書、論説その他とも、書評、紹介等のあるものは、当該著作の下に、【書評】として誌した。一部【関連著作】をも誌した。

5 論説その他中、随筆、評論、時論の類は（随筆等）、書評、紹介の類は（書評）、辞典項目は（辞典項目）、談話は（談話）と誌した。ただし、著書にまとめられたもので、現時点で初出不明のものが相当存在する。特に随想集『一法学者の嘆息』（弘文堂書房、昭和 11 年 10 月 15 日刊）所収の論稿についての初出は、未だ調査が及ばないため、判明したもの（同書の番号をとって、例えば（⑦-5）のように誌した。）しか記載していない。

6 参考として、4（1）追悼・回想、4（2）関連を載せるとともに、4（3）として、栗生先生御尊父の栗生武右衛門氏（1853～1936）関連文献を採録した。同氏研究もまた別の一つの課題であるといわれている。

7 附篇として、「① 栗生武夫先生『婚姻法の近代化』の中訳本について」、「② 『栗生武夫先生随筆拾遺』作成の思い出」及び「③ PDF 版『栗生武夫先生随筆拾遺—栗生武夫先生単行本未収録論稿集第一輯—』を本 HP 別稿として収載した。①は、先に『久保正幡先生・小林宏先生・山崎丹照先生略年譜・著作目録—ローマ法・法制史学者著作目録選（第四輯）—』（平成 16 年 3 月 1 日刊）に附録としたもの、②は、『春木一郎博士・原田慶吉教授・田中周友博士・船田享二博士・武藤智雄教授略年譜・著作目録—日本ローマ法学五先生略年譜・著作目録（三訂版）— —ローマ法・法制史学者著作目録選（第七輯）—』の栗に掲載したものであるが、いずれも多少補正の上再録した。下記「栗生武夫先生メモ」の補遺ともいべきものである。なお、前者に、「（参考）中国のローマ法研究者周枬氏について」を附載した。③は②本体の PDF 版であるが、いずれ機会を得て入力化できればと願っている。

8 四訂稿までには、「栗生武夫先生メモ」（註：同メモの目次は後記 10 参照。）及び附録として「1 主要参照ローマ法・法制史関係文献目録一覧、2 『京都法学会雑誌』（第 13 巻、大正 7 年 7～12 月）、『法学論叢』（第 1 巻～第 52 巻第 1 号、大正 8 年 7 月～昭和 21 年 7

月)、『法学』(第1巻～第14巻第1号、昭和7年～同25年3月)各巻号数対照表」を収録したが、本十一訂稿では、先の諸訂稿と同様、いずれも省略した。

9 三訂稿、四訂稿には、上山安敏先生の序文、四訂稿には、『法学』第11巻第6号(昭和17年6月刊)巻頭の「故栗生教授遺影」、小町谷操三教授の「弔辞」を掲載したが、六訂稿では、先の諸訂稿と同様、いずれも収録していない。

10 上記「栗生武夫先生メモ」は、次のとおりである。

「はじめに

#### 1 追想・回想

(1) 栗生武夫先生との出会い、(2) 岩野英夫教授の栗生先生研究、(3) 『東北大学法文学部略史』及び『東北大学五十年史』中の栗生先生、(4) 原田慶吉教授の栗生先生論、(5) 小町谷操三教授の弔辞及び栗生先生の遺影、(6) 金澤理康教授の栗生先生の思い出、(7) 戒能通孝博士の栗生先生の思い出、(8) 高柳眞三博士の栗生先生の思い出、(9) 恒藤恭博士の栗生先生の思い出、(10) 末川博博士の栗生先生の思い出、(11) 西本穎博士の栗生先生の思い出、(12) 『法学(読書案内)』中の栗生先生、(13) 齋藤秀夫博士の栗生先生の思い出

#### 2 重要論述

(1) 『法史学要講(第一分冊)』の件、(2) 恒藤 恭博士の栗生先生『法の変動』批評、(3) 『法律史の諸問題』巻頭の法史学対象論、

#### 3 栗生先生出題の「法史学」等試験問題

#### 4 栗生先生その人

(1) 栗生武右衛門氏のこと、(2) 京都における栗生先生、(3) 羅馬法学奨学費等と栗生先生、(4) 京都府立一中校長山本安之助氏の件、(5) 社会経済史学会と栗生先生、(6) 橋本文雄博士と栗生先生、(7) 栗生先生門下の人々、(8) 仙台での栗生先生の御住居、(9) 河北新報社に見る栗生先生、(10) 栗生先生の御筆跡、(11) 栗生先生その後

#### 5 随筆拾遺

(1) 栗生先生随筆拾遺(1) (『帝国大学新聞』等所載の随筆等)  
(2) 栗生先生随筆拾遺(2) (『法学サロン』掲載随筆)

#### 6 栗生武夫先生ノート一人と業績一

(1) 序、(2) 生涯、(3) 学風及び業績、(4) 結語

11 現時点でも遺漏なきを期し難く、本著作目録から漏れたものもかなりあり、また、当該年の発表順についてもなお調査が不完全である。識者の御示教を得て、更に補正に努めたいと考えている。

12 栗生先生の著作の全国諸大学における所蔵状況については CiNii <<https://cir.nii.ac.jp/>> 参照。

13 近年「栗生武夫電子文庫」を有する和田徹氏のホームページ「私立玉川用賀村中央図書館(新館)」(旧館は、平成13年11月11日開設、同15年5月10日閉鎖、新館に移転)が公開されている。<<http://home.q02.itscom.net/tosyokan/>>

(追記:「私立玉川用賀村中央図書館(新館)」は令和5(2023)年12月31日に閉館⇒令和6(2024)年6月5日再開(公表日) <<http://tosyokan.my.coocan.jp/>> )

## 1 略年譜

明治 23 (1890) 年 2 月 11 日 東京神田に生まれる。

明治 36 (1903) 年 4 月 私立東京中学校 2 年に入学  
(註: 東京中学校は現在の上野塾・東京高等学校の前身に当たる。同校については、『校史東京中学校・東京高等学校』(創立百十周年記念出版、昭和 58 年 5 月刊)、『校史 1872-1992 東京高等学校』(平成 4 年 10 月刊) 等各参照。〈<http://tokyo-hs.jp/>〉)

明治 40 (1907) 年 3 月 31 日 同校卒業

大正 2 (1913) 年 7 月 第七高等学校造士館第一部独法科 (第 10 回、186 名) 卒業  
同年 9 月 京都帝国大学法科大学政治学科入学(大正 3 年 8 月政治経済学科に改組。)

大正 4 (1915) 年 9 月 法律学科に転科

大正 6 (1917) 年 7 月 京都帝国大学法科大学法律学科卒業  
同 年 9 月 同大学院に入学、千賀鶴太郎に師事 (羅馬法専攻か (?) )  
同 年 帝国学士院藤田男爵羅馬法学奨学費受費

大正 7 (1918) 年 6 月 専攻科目を比較法制史に変更、仁保亀松に師事  
(註: 『学士院会員氏名録』(『学士会報』第 309 号ノ 2 (大正 7 年 11 月 25 日臨時増刊) )  
333 頁: 栗生武夫 大 6 京法 京都大学院学生 京都市上京区栗田口字田中 36)  
同 年 帝国学士院藤田男爵羅馬法学奨学費受費  
同 年 帝国学士院子爵夫人末松生子羅馬法奨励奨学品受品

大正 9 (1920) 年 帝国学士院藤田男爵羅馬法学奨学費受費

大正 10 (1921) 年 4 月 上記退学、同志社大学法学部教授 (民法・総則、独書講義) に任用される。

同 年同月 立命館大学講師を嘱託される (大正 11 年 4 月まで)。

大正 11 (1922) 年 4 月 眞宗大谷大学嘱託教授 (予科) を兼任  
同 年 7 月 法史学研究のため、英、独、仏に派遣されること決定  
同 年 11 月 他の東北帝国大学教官採用予定者とともに、学部規定決定の会議に参加

大正 12 (1923) 年 1 月 留学のため出発 (英、独、仏、後に瑞、米を追加。)

大正 14 (1925) 年 7 月 6 日 留学を終え帰国  
同 年 7 月 13 日 東北帝国大学教授に任用される。法文学部勤務、法史学講座担任、西洋法律史担当

昭和 3 (1928) 年 4 月 京都帝国大学法学部講師を嘱託される。西洋法制史を担当

昭和 4 (1929) 年 7 月 29 日 京都帝国大学より法学博士の学位を受く (「ビザンチン期ニ於ケル親族法ノ発達」)。  
(参考) 昭和 6 年東北帝大総長選挙後の記念写真 (於工学部講義室、総長選挙関係写真、データ No.C002805) (平成 26 年 7 月 2 日追加)  
〈 <http://webdb3.museum.tohoku.ac.jp/tua-photo/photo-img-s.php?id=C002805&kw=%B7%AA%C0%B8%C9%F0%C9%D7&mode=0> 〉

昭和 8 (1933) 年 7 月 上記講師の職を解かれる (「京大事件」のため)。

昭和 17 (1942) 年 5 月 2 日 逝去 (於東北帝大附属病院)  
同 年 5 月 5 日 3-4 時 仙台市川内澱橋通 12-26 の自宅で告別式挙行 (『東京朝  
日新聞』昭和 17 年 5 月 4 日、『東京朝日新聞 縮刷版』同年 5 月 23 頁)  
位階勲等 正四位勲三等 (逝去前)、宗教 真宗、趣味 日本音楽  
(後掲「2 (4) 参考 ア 追悼・回想、イ 関連」著作、就中岩野教授の御論稿等により、  
取りあえずの略歴を誌した。)

## 2 著作目録

### (1) 著書

#### 昭和3(1928)年

① 『婚姻立法における二主義の抗争』 京都 弘文堂書房（昭和3年2月20日刊、菊版クロス420頁、3円20銭）

〈<https://dl.ndl.go.jp/ja/pid/1272589>〉

【書評】中川善之助（1897～1975）「昭和3年学界回顧・法学界」（『経済往来』第3巻第12号（学界・財界・産業界・政界・社会運動界回顧号、昭和3年12月1日刊）、日本評論社）

② A『ビザンチン期における親族法の発達』 京都 弘文堂書房（昭和3年5月20日刊、菊版クロス220頁、1円80銭）

〈<https://dl.ndl.go.jp/ja/pid/1281081>〉

【書評】中川善之助（1897～1975）「昭和3年学界回顧・法学界」（『経済往来』第3巻第12号（学界・財界・産業界・政界・社会運動界回顧号、昭和3年12月1日刊）、日本評論社）（註：学位論文（京都帝国大学））

#### 昭和4(1929)年

③ 『人格権法の発達』 京都 弘文堂書房（昭和4年1月20日刊、菊版仮綴120頁、1円）

〈<https://dl.ndl.go.jp/ja/pid/1269005>〉

【書評】中川善之助（1897～1975）「昭和4年学界回顧・法学界」（『経済往来』第4巻第12号（昭和4年12月刊）、日本評論社）

④ 『西洋立法史』第1分冊 京都 弘文堂書房（昭和4年4月15日刊、菊版仮綴140頁、1円20銭）

〈<https://dl.ndl.go.jp/ja/pid/1280926>〉

【書評】中川善之助（1897～1975）「昭和4年学界回顧・法学界」（『経済往来』第4巻第12号（昭和4年12月刊）、日本評論社。飯田忠純「『法律史』と『法制史』との限界—法の歴史の法律学的構成について」（『社会経済史学』第2巻第4号、昭和7年7月刊）（註：「恒藤恭君にささぐ」とある。恒藤恭：1888～1967）

#### 昭和5(1930)年

⑤ A『婚姻法の近代化』 京都 弘文堂書房（昭和5年8月15日刊、菊版仮綴200頁、1円80銭）

〈<https://dl.ndl.go.jp/ja/pid/1269713>〉

（註：「京都府立第一中学校長山本安之助先生に捧ぐ」とある。山本安之助氏（?～1950）については、『京一中 洛北高校百年史』（昭和47年7月刊）、服部四郎（1908～1995）「郷土亀山市と県立津中学校」（『津高同窓会報』第22号、昭和59年12月12日刊。後に、服部四郎『一言語学者の随想』（汲古書院、平成4年11月刊）449頁以下に収録。）、「京都府立洛北高等学校—日本の名門高校ベスト100—」（『週刊朝日』平成13年9月

21 日号、52 頁) 等参照。) )

【関連】中訳本に、胡長清 (1900~1988) 『婚姻法之近代化』 (中華民國、詳細不明) があるという。これは、曾華松 (中華民國大法官) 「惟理是求的炎輝院長」 『法学哲人一戴炎輝博士回憶集』 (台北、1997 年 11 月 28 日刊) 114、115 頁による。同訳本について、平成 11 (1999) 年 3 月末、台湾の知人にお尋ねしたところ、わざわざ曾大法官にお聞き下さったが、同氏がかつて軍法学校で予備軍官 (軍法官) 訓練時に、同校図書室で借りて読まれたものであることしかわからず、加えて二、三の主要図書館にも当たっていただいたが、発見できないとのことであった。詳しくは、別稿「栗生武夫先生『婚姻法の近代化』の中訳本について」〈[https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/kuryu\\_chuhon.pdf](https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/kuryu_chuhon.pdf)〉参照。

(追加)

『中訳日文書目録』 国際文化振興会 (昭和 20 年 2 月 20 日刊) (註: 實藤恵秀執筆に係るもので、56 頁に「栗生武夫 婚姻法の近代化 (訳者) 胡長清 商務 (印書館)、民国 24 年刊」の記載あり。) (平成 19 年 12 月 21 日追加)

[参考: 2004.2.12] 「ネット: 「書虫」 商品名: 婚姻法之近代化-中国近代法学訳叢 価格: 1,360 円 (税送料込み) (\*) 商品コード: HYFZ084596 編著者: (日) 栗生武夫著・胡長清訳・沈大明勘校 出版社: 中国政法大学 サイズ: 32 開 ページ: 160 装幀: 精装 出版年月: 2003 年 5 月 ISBN: 7-5620-2270-4 分類: 法律 日本」 (内山書店 中国図書情報)

【書評】中川善之助 (1897~1975) 「栗生武夫『婚姻法の近代化』」 (『法律時報』第 2 巻第 11 号、昭和 5 年刊)

【書評】中川善之助 (1897~1975) 「学界の回顧 日本法律学の 1930 年—私法を中心として—」 (『経済往来』第 5 巻第 13 号 (昭和 5 年 12 月刊)、日本評論社) (平成 20 年 3 月 17 日追加)

【関連】栗生武夫「中川教授の批評に対して」 (『法律時報』第 3 巻第 1 号、昭和 6 年刊。後、⑦『一法学者の嘆息』に収録。)

### 昭和 7 (1932) 年

⑥ 『中世私法史』 京都 弘文堂書房 (昭和 6 年 2 月 1 日刊、菊版仮綴 150 頁、1 円 20 銭)

〈<https://dl.ndl.go.jp/ja/pid/1269159>〉

【書評】西本穎 (1904~1982) 「栗生教授『中世私法史』」 (『法学論叢』第 27 巻第 4 号、昭和 7 年刊)

### 昭和 11 (1936) 年

⑦ 『一法学者の嘆息』 東京 弘文堂書房 (昭和 11 年 10 月 15 日刊、46 版 294 頁、1 円 50 銭)

〈<https://dl.ndl.go.jp/ja/pid/1277376>〉

【書評】山木戸克己 (1901~2003) 「中川教授『法学協奏曲』 (註: 河出書房、昭和 11 年 10 月刊) と栗生教授『一法学者の嘆息』」 (『法律時報』第 9 巻第 1 号、昭和 12 年刊) (註: 山木戸教授は、平成 15 (2003) 年 4 月 16 日に逝去された。享年 92。かつてお聞きしたところによると、本書評は末川博博士の御依頼によるものであったようである。) ⇒ 『一法学者の嘆息』については、和田徹氏の HP 「私立玉川用賀村中央図書館所蔵梅雨



空文庫」〈<http://home.q02.itscom.net/tosyokan/tuyuzora.htm>〉参照。

【書評】匿名「栗生武夫著 一法学者の嘆息」(『良書百選 第6輯』(日本図書館協会、昭和12年3月31日刊)32、33頁。近代デジタルライブラリー〈<http://dl.ndl.go.jp/>〉に収録。)(平成23年10月31日追加)

### 昭和12(1937)年

⑧ A『法の変動』 東京 岩波書店(昭和12年1月14日刊、菊版464頁、3円20銭)

(註:「佐々木惣一博士に捧ぐ」とある。佐々木惣一:1878~1965)

〈<https://dl.ndl.go.jp/ja/pid/1268405>〉

【書評】恒藤恭(1888~1967「栗生武夫『法の変動』—異彩を放つ栗生氏の新書」(『帝国大学新聞』第666号(昭和12年3月22日刊)、『復刻版 帝国大学新聞』(東京 不二出版、昭和59~60年刊)第11巻138頁)

【書評】西本穎(1904~1982)「栗生教授『法の変動』」(『法学論叢』第36巻第3号、昭和12年刊)

【書評】淵定(淵,1909~1944)「栗生武夫『法の変動』」(『法と経済』第7巻第4号、昭和12年刊)

【書評】(カレントブックス)船田享二(1898~1970)「栗生武夫『法の変動』と寺田寅彦全集の随筆」(『帝国大学新聞』第690号(昭和12年10月18日号)、『復刻版 帝国大学新聞』第11巻第410頁。寺田寅彦:1878~1935)

### 昭和12~14(1937~39)年

⑨ 『法史学要講』第1分冊「出版地不明」「出版者不明」(菊版仮綴106頁)

(註:発行年月日不明であるが、西本、久保両教授の⑧、⑩に対する書評よりみて、おそらくこの間と思われる。同書については、例えば、立命館大学「末川文庫」、國學院大學「峯村光郎文庫」、九大法、東北大本館、同志社大、日大法等各所蔵。また、以前は和田徹氏のHP「梅雨空文庫」にも収録されていた。)

〈<https://cir.nii.ac.jp/crid/1130000795993981696>〉

### 昭和15(1940)年

⑩ 『法律史の諸問題』 東京 岩波書店(昭和15年2月27日刊、菊版469頁、4円30銭)

〈<https://dl.ndl.go.jp/ja/pid/1271661>〉

(註:「田村徳治博士にさゝぐ一わが親愛のしるしとして—」とある。田村徳治:1886~1958)

【書評】(新刊紹介)「栗生武夫氏『法律史の諸問題』」(『法律時報』第12巻第4号、昭和15年刊)

【書評】西本穎(1904~1982)「栗生博士『法律史の諸問題』」(『法学論叢』第42巻第4号、昭和15年刊)

【書評】久保正幡(1911~2023)「栗生武夫著『法律史の諸問題』」(『国家学会雑誌』第54巻第5号、昭和15年刊)

【書評】三戸壽(1908~1971)「栗生武夫博士『法律史の諸問題』」(『法律時報』第12巻第6号、昭和15年刊)

【書評】細川亀市（1905～1962）「栗生武夫博士著『法律史の諸問題』を読む」（『法学志林』第42巻第7号、昭和15年刊）

【書評】牧野英一（1878～1970）「国民精神と正当法」（『自治研究』第16巻第4号、昭和15年刊）

（註：⑩中「序にかへて法史学の対象を論ず」を批評したもの。）

【関連】「栗生武夫『法律史の諸問題』（昭和15年）（中川善之助（1897～1975）、清水英夫（1922～2013）編『読書案内 法学』第3編法学名著パトロール（社会思想社、昭和43年3月30日刊））

（昭和17（1942）年5月2日 逝去）

#### 昭和18（1943）年

⑩ 『入会の歴史其他』（法学叢書7）東京日本評論社（昭和18年9月20日刊、四六版202頁、1円50銭（註：遺著、高柳眞三教授の「序言」が附されている。）

〈<https://dl.ndl.go.jp/ja/pid/1267445>〉

【書評】水本浩（1920～1999）・平井一雄（1935～）『日本民法学史・通史』（信山社、平成9年2月20日刊、219頁）

#### 昭和24（1949）年

⑧B 『法の変動』東京 岩波書店、第2刷（昭和24年8月5日刊）（註：⑧A中ナチス関係につき省略があるとともに、高柳眞三教授（1902～1990）の「跋」が附されている。）

〈<https://dl.ndl.go.jp/ja/pid/1154041>〉

〈<https://cir.nii.ac.jp/crid/1130000797442640640>〉

#### 昭和43（1968）年

②B 『ビザンチン期における親族法の発達』東京 清水弘文堂書房（昭和43年9月30日刊、A5版、1,500円）（註：②の復刊）

⑥B 『中世私法史』東京 清水弘文堂書房（昭和43年9月30日刊、A5版、1,000円）（註：⑥Aの復刊）

⑤B 『婚姻法の近代化』東京 清水弘文堂書房（昭和43年10月刊、A5版、1,500円）（註：⑤Aの復刊）

#### （参考）

・令和4（2022）年6月27日（月）に本HP別稿として、PDF版『栗生武夫先生随筆拾遺—栗生武夫先生単行本未収録論稿集第一輯—』を掲載した。

〈[https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/kuryu\\_zuihitsu\\_shui\\_002.pdf](https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/kuryu_zuihitsu_shui_002.pdf)〉

収録内容については、本HP別稿「『栗生武夫先生随筆拾遺』作成の思い出—『栗生武夫先生随筆拾遺—栗生武夫先生単行本未収録論稿集第一輯—』」参照。

〈[https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/kuryu\\_zuihitsu\\_shui.pdf](https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/kuryu_zuihitsu_shui.pdf)〉（令和4（2022）年6月28日追加）

## (2) 編書

### 昭和 10 (1935) 年

・橋本文雄 (1902～1934) 『社会法の研究』 東京 岩波書店 (昭和 10 年 4 月 1 日刊、菊版 376 頁、2 円 50 銭)

〈<https://dl.ndl.go.jp/ja/pid/1224439/1/4>〉

〈<https://cir.nii.ac.jp/crid/1130282270857259520>〉

【書評】戒能通孝 (1908～1975) 「橋本文雄『社会法の研究』」 (『国家学会雑誌』第 49 卷第 9 号、昭和 10 年刊) (註: 恒藤恭と共編)

【参考 1】栗生武夫「橋本 [文雄] 君の思出」『法学』第 3 卷第 10 号 (昭和 9 年刊) (後に、『書齋の窓』第 47 号 (昭和 32 年 7 月刊) に再録。橋本文雄: 1902～1934) (令和 6 (2024) 年 6 月 9 日追加)

【参考 2】栗生武夫「橋本文雄君の思い出」『書齋の窓』(有斐閣) 第 47 号 (昭和 32 年 7 月号) (註: 前掲『法学』第 3 卷第 10 号 (昭和 9 年刊) 所収のもの改題再録。橋本文雄『社会法と市民法』(有斐閣、昭和 32 年 3 月刊) 刊行の参考資料として掲載。) (令和 6 (2024) 年 6 月 9 日追加)

### (3) 論説その他

#### 大正 7 (1918) 年

- ・Jus Gentium 発達ノ内面 『京都法学会雑誌』第 13 卷第 7 号 (大正 7 年刊)

#### 大正 8 (1919) 年

- ・現代法理学ノ三問題 (1) (未完) 『法学論叢』第 1 卷第 1 号 (大正 8 年刊)

#### 大正 9 (1920) 年 (なしか?)

#### 大正 10 (1921) 年

- ・羅馬法分布史に於ける東羅馬帝国の地位 (1)、(2)、(3 完) 『法学論叢』第 6 卷第 1、2 号、第 7 卷第 2 号 (大正 10 年刊) (⑩)
- ・西洋法制史研究の必要に就て 『法学論叢』第 6 卷第 6 号 (大正 10 年刊)

#### 大正 11 (1922) 年

- ・蛮人法殊に Lex Salica に就て 『法学論叢』第 7 卷第 1 号 (大正 11 年刊)
- ・中世イタリヤの法源 (1) (未完) 『同志社論叢』第 7 号 (大正 11 年 2 月刊)
- ・ローマの法学教育 『法学論叢』第 7 卷第 5 号 (大正 11 年刊) (⑩)

#### 大正 12 (1923) 年 (註: 大正 12 年 1 月～大正 14 年 7 月在外研究)

#### 大正 13 (1924) 年

- ・ゼッケル教授逝く 『法学論叢』第 12 卷第 2 号 (大正 13 年刊) (⑦-5) (註: 在ベルリン執筆。ゼッケル: 1864～1924)

#### 大正 14 (1925) 年

- ・ローマ婚姻法の東方化 (1)、(2) 完 『法学論叢』第 13 卷第 2 号、同第 3 号 (大正 14 年刊) (註: 在ベルリン執筆)
- ・ローマ親権法の東方化 (1)、(2) 完 『法学論叢』第 13 卷第 4 号、第 14 卷第 4 号 (大正 14 年刊) (註: 在ベルリン執筆)
- ・ドイツに於ける暴利取締令の一問題 『法学論叢』第 13 卷第 4 号 (大正 14 年刊) (註: 在ベルリン執筆)

#### 大正 15/昭和元 (1926) 年

- ・在外日本観 (講演要記) 『専売協会誌』第 161 号 (専売協会、大正 15 年 1 月 10 日刊) 111～121 頁 (「国立国会図書館のデジタル化資料」に拠る。) (平成 24 年 2 月 10 日追加)
- ・ドイツに於ける地上権法の改正 『法学論叢』第 15 卷第 3 号 (大正 15 年刊)
- ・ローマの内縁と日本のそれ (1) (2) 完 『法学志林』第 28 卷第 9、10 号 (大正 15 年刊) (①) (老川寛 (1930～2010) 監修『家族研究論文資料集成 明治 大正 昭和前期篇』第 19 卷 婚姻 (3) (クレス出版、平成 13 年 4 月 25 日刊) 552-605 頁に再録。)

【関連】船田享二 (1898～1970) 「栗生法学士稿『ローマの内縁と日本のそれ』を機縁として (1) (2) (3) 完」 『日本法政新誌』 (註: 『法律学研究』の前身) 第 24 卷第 2、3、4 号 (昭和 2 年刊)

- ・医師国営の第一歩 (随筆等) 『法律春秋』第 1 卷第 4 号 (大正 15 年刊) (⑦-3)

#### 昭和 2 (1927) 年

- ・婚姻法の発展 (1) (2) (3) 完 『法学新報』第 37 卷第 3、4、6 号 (昭和 2 年刊) (①)

- ・いい法律家（随筆等） 『法律春秋』第2巻第3号（昭和2年刊）（⑦-1）
- ・婚姻の方式—七七五条の法史学的研究— 『法学論叢』第17巻第5号（昭和2年刊）（①）（老川寛老川寛（1930～2010）監修『家族研究論文資料集成 明治 大正 昭和前期篇』第19巻 婚姻（3）（クレス出版、平成13年4月25日刊）802-830頁に再録。）
- 【書評】（時論観）（文献紹介） 『法学新報』第37巻第6号（昭和2年刊）
- ・婚姻同意に関する法制の発展 『法学論叢』第17巻第6号（昭和2年刊）（①）
- ・婚姻法に於ける表示主義及び目的主義（1）（2）完 『法学論叢』第18巻第3、4号（昭和2年刊）
- ・金銭債権者の優位（随筆等） 『法律春秋』第2巻第7号（昭和2年刊）（⑦-8）
- ・夫婦財産契約の活用 『法学志林』第29巻第9号（昭和2年刊）（①）
- ・夫の貞操義務の条文上の根拠 『法学志林』第29巻第10号（昭和2年刊）（①）
- 【書評】（時論観）（文献紹介） 『法学新報』第37巻第11号（昭和2年刊）
- ・相姦婚姻の禁を撤せよ（随筆等） 『法律春秋』第2巻第12号（昭和2年刊）（⑦-9）

### 昭和3（1928）年

- ・ビザンチン研究の過去及現在 『法学論叢』第19巻第4号（昭和3年刊）
- ・死亡宣告制度の成立するまで 『法学論叢』第20巻第1号（昭和3年刊）（⑧）
- ・遺族損害賠償請求権分解の傾向 『法学論叢』第20巻第6号（昭和3年刊）

### 昭和4（1929）年

- ・肖像権＝人格権の社会化（随筆等） 『法律春秋』第4巻第1号（昭和4年刊）（⑦-2）

### 昭和5（1930）年

- ・意思欠缺の抗弁の制度—意思表示法の発達史— 『法学論叢』第23巻第1号（昭和5年刊）（⑧（註：⑧収録に当たり、副題を表題に変更。））
- ・イエーリング（辞典項目） 『社会科学大辞典』（社会思想社編、改造社刊、昭和5年5月15日刊。イエーリング1818～1892）
- ・法規史の観念 『京都帝国大学新聞』130号（昭和5年10月5日号）（『京都大学新聞 縮刷版』（京都大学新聞社、昭和44年刊。後、増補の上、不二出版より昭和61年7月10日に『復刻版 京都大学新聞』として刊行。）第1巻（大正14年4月～昭和9年3月）602頁）（⑦-6（註：一部収録。））

### 昭和6（1931）年

- ・離婚原因の拡大史 『春木先生還暦祝賀論文集』（有斐閣、昭和6年1月10日刊。春木一郎：1879～1944）所収（⑧）
- 【書評】廣濱嘉雄（1891～1960）『春木先生還暦祝賀論文集』中の栗生先生の部分『法律時報』第3巻第4号（昭和6年刊）
- ・中川（善之助）教授の批評（註：栗生著⑤A『婚姻法の近代化』）に対して 『法律時報』第3巻第1号（昭和6年刊。中川善之助：1897～1975）（⑦-11（註：一部収録。））
- ・結婚と法律 『婦人公論大学』第3結婚編（中央公論社、昭和6年4月15日刊）113～152頁（平成26年5月20日追加）

### 昭和7（1932）年

- ・経済上の自由放任と契約の自由 『法学』第1巻第1号（昭和7年刊）（⑧）

- ・教会法の法源 (1) (2) 完 『法学論叢』第27巻第5、6号(昭和7年刊) (⑧)
- ・法の目的・法の変革 『法学』第1巻第7号(昭和7年刊)

【書評】(所論要領の紹介) 『司法協会雑誌』(註: 京城) 第11巻第8号(昭和7年刊)

- ・法律解釈学の神学性はいかにして始まったか (1)、(2)、(3) 完 『法学志林』第34巻第9、10、11号(昭和7年刊) (⑧)

### 昭和8(1933)年

- ・ゲルマン古法のスケッチ (1)、(2)、(3)、(4) 完 『法学』第2巻第1、2、3、4号(昭和8年刊) (⑧)

・大学閉鎖の前提瀧川教授の問題(随筆等) 『東京朝日新聞』昭和8年5月14日(『東京朝日新聞 縮刷版』昭和8年5月14日、13頁)、『大阪朝日新聞』昭和8年5月17日(『大阪朝日新聞』については、世界思想社編『瀧川事件記録と資料』(世界思想社、平成13年8月30日刊)に拠る。以下『瀧川事件』として引用。瀧川幸辰: 1891~1962) (⑦-13)

- ・解釈法学の神学性 『法学』第2巻第6号(昭和8年刊)
- ・京大事件への批判(随筆等) 『中央公論』第48年第7号(昭和8年7月号) (⑦-12、14)

・論壇時評(1) 有意義な二問題—有沢(広巳)、末弘(巖太郎)両氏の論文(書評、随筆等) 『読売新聞』昭和8年7月27日(⑦-16、但し、有沢「人絹紡績企業論」(『中央公論』8月号)は未収録。有沢広巳: 1896~1988、末弘巖太郎: 1888~1951)

・論壇時評(2) 京大問題の諸論文(註: 美濃部達吉、横田喜三郎)並に牧野(英一)、阿部(真之助)氏等の所説(書評、随筆等) 『読売新聞』昭和8年7月28日(⑦-16)

・論壇時評(3) 地平線を抽く〈ママ〉恒藤(恭)氏、同窓としての人間佐野学(書評、随筆等) 『読売新聞』昭和8年7月29日(⑦-16)

・論壇時評(4) 大森(義太郎)氏の自由意志論(書評、随筆等) 『読売新聞』昭和8年7月30日(⑦-20)

・伊沢孝平(1901~1975)、栗生武夫他『法学協会五十周年記念論文集』(註: 第1、2部、東京、法学協会、昭和8年4月刊)(合評)(東北帝国大学法文学部) 『法律時報』第5巻第8号(昭和8年刊)

・観望する 栗生武夫氏談話(註: 京大事件関係)(談話) 『帝国大学新聞』第491号(昭和8年9月4日)第2面(『復刻版 帝国大学新聞』第7巻268頁、前掲『瀧川事件』744頁)

・モダン婚姻法(随筆等) 『中央公論』第48年第10号(昭和8年10月号) (⑦)  
(老川寛(1930~2010)監修『家族研究論文資料集成 明治 大正 昭和前期篇』第20巻 婚姻(4)(クレス出版、平成13年4月25日刊)624-632頁に再録。)

### 昭和9(1934)年

- ・法律解釈の本質 (1)、(2) 完 『法と経済』(註: 立命館大学)第2巻第1、2号(昭和9年刊) (⑧)

【書評】加古祐二郎(1905~1937)「栗生武夫『法律解釈の本質』」 『法律時報』第

6 卷第 9 号（昭和 9 年刊）

・輿論を汲んで善処して貰いたい 栗生武夫教授談（註：京大事件関係）（談話） 『帝国大学新聞』第 511 号（昭和 9 年 1 月 29 日）第 6 面（『復刻版 帝国大学新聞』第 8 卷 40 頁、前掲『瀧川事件』757 頁）。

・中世イタリアにおけるローマ法の運命—註釈学勃興前の状況— 『東北帝国大学法文学部創立十周年記念法学論集』（有斐閣、昭和 9 年 3 月 30 日刊）所収（⑧（註：昭和 8 年 12 月 30 日稿の記載あり。））

・法律学の転落 『中央公論』第 49 年第 4 号（昭和 9 年 4 月号）

【書評】石浜知行（1899～1950）「勇敢なる宣言 四月の論壇（2） 栗生氏の『法律学の転落』」 『東京朝日新聞』昭和 9 年 4 月 5 日

・僕の愚知〈マ〉 『大阪朝日新聞』昭和 9 年 5 月 25 日京都版投書欄「カクテール」（⑦-15「一つの愚痴」、前掲『瀧川事件』294 頁。なお、「カクテール」については、『石語「カクテール」第 1 輯』（政経書院、昭和 10 年刊）なるものが出ている由である（上記『瀧川事件』253 頁）。）

註釈学者（グロサトーレン）の群像 『法学』第 3 卷第 6 号（昭和 9 年刊）（⑧）

【書評】淵定（淵, 1909～1944）：「栗生武夫『註釈学者の群像』」 『法律時報』第 6 卷第 8 号（昭和 9 年刊）。

・（穂積重遠）「有閑法学」（書評） 『東京朝日新聞』昭和 9 年 6 月 8 日（『東京朝日新聞 縮刷版』昭和 9 年 6 月 112 頁）（⑦-21）

・八月の論壇（1）新人のナチス論峰村（マ、峯村光郎（1906～1978））氏の『民族と法律』（書評、随筆等） 『東京朝日新聞』昭和 9 年 7 月 28 日（上記『縮刷版』昭和 9 年 7 月 409 頁）（⑦-18）

・八月の論壇（2）重臣会議論—美濃部（達吉）、森口（繁治）両博士の説—（書評、随筆等） 『東京朝日新聞』昭和 9 年 7 月 29 日（上記『縮刷版』昭和 9 年 7 月 423 頁）（⑦-32、33）

・八月の論壇（3）華々しき論戦—日本資本主義の特質問題—（書評、随筆等） 『東京朝日新聞』昭和 9 年 7 月 30 日（上記『縮刷版』昭和 9 年 7 月 437 頁）

・八月の論壇（4）完 うわさの分析（長谷川）如是閑氏の小品論文（書評、随筆等） 『東京朝日新聞』昭和 9 年 7 月 31 日（上記『縮刷版』昭和 9 年 7 月 451 頁）（⑦-19）

・論壇時評（1）シエストフ的不安 三木清・シエストフ的不安について（改造）（書評、随筆等） 『読売新聞』昭和 9 年 8 月 30 日（②-45）

・論壇時評（2）過剰人口と農民危機 上田貞次郎・我国の人口構成と職業問題（改造）、猪俣津南雄・望み求めるもの（改造）（書評、随筆等） 『読売新聞』昭和 9 年 8 月 31 日（②-42、43）

・論壇時評（3）ヒットラー・ルーズベルト・岡田（啓介） 向坂逸郎・ヒットラー政権の確立へ（中公）、大山郁夫・動く合衆国現政権の解剖（中公）、美濃部達吉・岡田内閣の使命（中公）（書評、随筆等） 『読売新聞』昭和 9 年 9 月 1 日（②-31）

・論壇時評（4）司法制度の根本改造 末川博・司法制度刷新一面観（中公）（書評、随筆等） 『読売新聞』昭和 9 年 9 月 2 日（②-4）

- ・ナチ法律哲学 『改造』第16巻第10号(昭和9年9月号) (⑧)
- ・政治の優越と司法の隷属—ナチ政権下の司法の地位— 『中央公論』第49年第11号(昭和9年10月号)
- ・橋本(文雄)君の思出(随筆等) 『法学』第3巻第10号(昭和9年刊) (⑦-47(註:改稿して収録。))。後に、『書齋の窓』第47号(昭和32年7月刊)に再録。橋本文雄:1902~1934)

### 昭和10(1935)年

- ・一法学者の嘆息(随筆等) 『中央公論』第50年第7号(昭和10年7月号) (⑦-24、25、26、27、28、29として収録。)
- 【書評】磯崎辰五郎(1898~1990):「栗生武夫『一法学者の嘆息』」 『法律時報』第7巻第8号(昭和10年刊)
- ・女給の社会学(随筆等) 『文藝春秋』昭和10年9月号(⑦-48)
- ・法律社会学の課題(随筆等) 『帝国大学新聞』第597号(昭和10年11月4日号)(『復刻版 帝国大学新聞』第9巻411頁) (⑦—22)
- ・現代の恋愛(随筆等) 『中央公論』続50周年記念特大号(昭和10年11月号) (⑦-50)
- ・論壇時評(1) 現代への四五の渦点 十二月号雑誌内容分布図(書評、随筆等) 『読売新聞』昭和10年11月29日(⑦-17)
- ・論壇時評(2) 支那問題論文への難点現象を科学的判断で(書評、随筆等) 『読売新聞』昭和10年11月30日(⑦-17)
- ・論壇時評(3) 封建的農村地代と解放 平野(義太郎)、向坂(逸郎)両氏の論争(書評、随筆等) 『読売新聞』昭和10年12月1日(⑦-17)
- ・論壇時評(完) <マ> 進歩性なき大学の講義 新聞の社説の変遷(書評、随筆等) 『読売新聞』昭和10年12月3日(⑦-17)
- ・法の実質 『法学』第4巻第12号(昭和10年刊) (⑧)

### 昭和11(1936)年

- ・ナチス学者の指摘した近代法の精神 『法律時報』第8巻第1号(昭和11年刊) (⑦-7(註:改稿して収録。))
- ・西洋人の恐怖 人口調節と文化(1)、(2) 『大阪朝日新聞』昭和11年1月24日、25日(⑦-44(「産児調節」に改題し、改稿して収録。)) (神戸大学附属図書館デジタルアーカイブ「新聞記事文庫」中「栗生武夫」で検索。平成20年8月25日追加)  
(<http://www.lib.kobe-u.ac.jp/sinbun/>)
- ・ドラコー法典(辞典項目) 『法律学辞典』第3巻(岩波書店、昭和11年3月15日刊)
- ・ハムラビー法典(辞典項目) 『法律学辞典』第4巻(岩波書店、昭和11年8月27日刊)
- ・マヌー法典(辞典項目) 『法律学辞典』第4巻(岩波書店、昭和11年8月27日刊)
- ・モーゼ・タルムッド法典(辞典項目) 『法律学辞典』第4巻(岩波書店、昭和11年8月27日刊)



## 昭和 12 (1937) 年

- ・中世都市の法 『法学』第 6 巻第 12 号 (昭和 12 年刊) (⑩)
- ・高等試験令の改正 (上) 自由主義下の官吏政策 (随筆等) 『東京朝日新聞』昭和 12 年 12 月 14 日 (前掲『東京朝日新聞 縮刷版』(昭和 12 年 12 月) 218 頁)
- ・高等試験令の改正 (下) 統制経済下の官吏政策 (随筆等) 『東京朝日新聞』昭和 12 年 12 月 15 日 (上記『縮刷版』(昭和 12 年 12 月) 234 頁)

## 昭和 13 (1938) 年

- ・カレントブックス (田村徳治『学問と世界の真実』(立命館出版、昭和 12 年 12 月刊。田村徳治(1886~1958))他) (書評) 『帝国大学新聞』703 号 (昭和 13 年 1 月 7 日号) (前掲『復刻版 帝国大学新聞』第 12 巻 26 頁)
- ・不徹底な高文改正案 (随筆等) 『帝国大学新聞』第 707 号 (昭和 13 年 2 月 14 日号) (上記『復刻版 帝国大学新聞』第 12 巻 71 頁)
- ・中世末葉における法的規範の発生 (1) (2) 完 『公法雑誌』第 4 巻第 1、2 号 (昭和 13 年刊) (⑩)
- ・中世の農民 (1) (2) (未完) 『法学』第 7 巻第 3、4 号 (昭和 13 年刊) (⑩ (註: 収録に当たり、(1) のみ「農民の発生」と改称。))
- ・大学の革新派 (随筆等) 『読売新聞』昭和 13 年 3 月 24 日 (木) 夕刊 (「曲射砲」覧)
- ・中世の貴族 『公法雑誌』第 4 巻第 7 号 (昭和 13 年刊) (⑩)
- ・震災の思出 (随筆等) 『文藝春秋』昭和 13 年 7 月号
- ・大学改革の基礎原理 (随筆等) 『読売新聞』昭和 13 年 8 月 11 日 (木) 夕刊 (「曲射砲」覧)
- ・中世の自由人 『法学』第 7 巻第 9 号 (昭和 13 年刊) (⑩)
- ・牧野 (英一) 博士の『刑法 30 年』 『法律時報』第 10 巻第 9 号 (昭和 13 年刊。牧野英一(1878~1970))
- ・月と政治 (銃眼) (随筆等) 『文藝春秋』時局増刊 12 (通巻第 200 号、昭和 13 年 9 月 10 日刊) 127 頁
- ・中世の慣習法理論 『佐々木 [惣一] 博士還暦記念国家及法律の理論』(有斐閣、昭和 13 年 10 月 25 日刊。佐々木惣一: 1878~1965) 所収 (⑩) (註: 1937 年 10 月 9 日稿の記載あり。)

【書評】日高久志「東北帝大教授栗生武夫氏の思想法を検討す—「中世の慣習法理論」を贈られて—」『原理日本』第 14 巻第 10 号 (原理日本社、昭和 13 年 12 月号、第 127 号) 39~40 頁 (「目次」には「東北帝大教授栗生武夫氏の思想法批判」とある。「国立国会図書館のデジタル化資料」に拠る。) (平成 24 年 2 月 10 日追加)

- ・土地所有権の成立 (1) (2) (3) 完 『法学』第 7 巻第 11、12 号 (昭和 13 年刊)、第 8 巻第 4 号 (昭和 14 年刊) (⑩)

【書評】大西泰博「解説」加藤雅信 (編者代表) 『日本民法施行百年記念民法学説百年史』(三省堂、平成 11 年 12 月 31 日) 243~246 頁

## 昭和 14 (1939) 年

- ・事変の世界史的意義 (随筆等) 『法学』サロン第 41 号 (『法学』第 8 巻第 1 号附録、

昭和 14 年 1 月 1 日刊) (註: 後、東北帝国大学法学会編『法学瑣論』(岩波書店、昭和 14 年 9 月 16 日刊)に一部改稿の上再録。【書評】宮沢俊義(1899~1976)「『法学瑣論』を読む」(『法律時報』第 12 卷第 1 号、昭和 15 年 1 月刊))

- ・学界余滴 行政科の民法(随筆等) 『東京朝日新聞』昭和 14 年 7 月 9 日
- ・論文について(随筆等) 『法学』サロン第 48 号(『法学』第 8 卷第 8 号附録、昭和 14 年 8 月 1 日刊)
- ・杉浦(重剛)先生(随筆等) 『文藝春秋』昭和 14 年 8 月号(杉浦重剛: 1855~1924)
- ・半自由人とは何ぞ(1、2 完) 『法学』第 8 卷第 9、10 号(昭和 14 年刊) (⑩(註: 収録に当たり、「ゲルマンの半自由人制」と改称。))
- ・ローマの農奴制(コロナート) 『公法雑誌』第 5 卷第 10 号(昭和 14 年刊) (⑩)
- ・中世の奴隷 『佐藤(丑次郎)教授退職記念法及政治の諸問題』(有斐閣、昭和 14 年 11 月 15 日刊。佐藤丑次郎: 1877~1940) 所収(⑩)

#### 昭和 15 (1940) 年

- ・狩猟権及漁撈権(1)、(2) 完 『法学』第 9 卷第 3、4 号(註: 漁撈権には言及なし。)(昭和 15 年刊) (⑩)
- ・加工の歴史 『法学』第 9 卷第 6 号(昭和 15 年刊) (⑩)
- ・入会の歴史(1) (2) 完 『法学』第 9 卷第 9、11 号(昭和 15 年刊) (⑩)
- ・法律学の一転回(随筆等) 『帝国大学新聞』第 828 号(昭和 15 年 10 月 21 日号)(『復刻版 帝国大学新聞』第 14 卷 378 頁)

#### 昭和 16 (1941) 年

- ・日本固有法論の使命(随筆等) 『帝国大学新聞』第 842 号(昭和 16 年 2 月 3 日号)(上記『復刻版 帝国大学新聞』第 15 卷 34 頁)

#### 昭和 17 (1942) 年 (5 月 2 日逝去)

#### 昭和 32 (1957) 年

- ・橋本文雄君の思い出(随筆等) 『書斎の窓』(有斐閣) 第 47 号(昭和 32 年 7 月号)(註: 前掲『法学』第 3 卷第 10 号(昭和 9 年刊) 所収のもの改題再録。橋本文雄『社会法と市民法』(有斐閣、昭和 32 年 3 月刊) 刊行の参考資料として掲載。橋本文雄: 1902~1934)

#### (初出等調査中のもの)

⑦『一法学者の嘆息』(昭和 11 年 10 月 15 日刊)の諸随筆中初出未判明の論稿(『河北新報』は未調査。)

23 ローマ没落の原因、30 政治とは何か(註: 昭和 7 年以降)、34 相澤中佐の信念(註: 昭和 10 年 8 月以降)、35 小個人主義者としての日本人、36 総選挙とお祭騒ぎ、37 英書時代、38 モルガン、39 アメリカからの新鮮な風、40 家族制度と資本主義、41 小作関係(註: 昭和 9 年 7 月以降)、46 初冬の日記、49 情熱恋愛と趣味恋愛(註: 昭和元年以降)

⑧法の理解(初出か?)

⑧ナチ政権下の法律(初出か?)

### 3 参考

#### ア 追悼・回想

##### 昭和 12 (1937) 年

・瀧川幸辰「先生（1936（昭和 11 年）.3）」『随想と回想』（立命館出版部、昭和 12 年刊。出版後まもなく発売禁止処分を受けし由。（未見））、同（有斐閣、昭和 22 年 12 月 10 日刊。旧著を一部削除して改版したもの。）187～194 頁（先生（佐々木惣一博士、1878～1965）の思い出を叙述したもののなかで、欧州留学時代の栗生先生（文中「東北大学の K 君」）にも言及。。『瀧川幸辰刑法著作集』（全 5 巻、世界思想社、昭和 56 年 8 月刊）には未収録。）（平成 21 年 4 月 11 日追加）

##### 昭和 17 (1942) 年

・小町谷操三（1893～1979）「栗生教授に対する弔辞」（遺影掲載）『法学』第 11 巻第 6 号（昭和 17 年刊）（註：『本著作目録（四訂稿）』に収録。）  
・金澤理康（1903～1948）「栗生武夫博士」『社会経済史学』第 12 巻第 4 号（昭和 17 年刊）

##### 昭和 18 (1943) 年

・高柳眞三（1902～1990）：「序言」栗生武夫『入会の歴史其他』（日本評論社、昭和 18 年 9 月 20 日刊）

##### 昭和 24 (1949) 年

・高柳眞三（1902～1990）：「跋」栗生武夫『法の変動』（第 2 刷、岩波書店、昭和 24 年刊）

##### 昭和 27 (1952) 年

・恒藤恭（1888～1967）「学徒生活の思い出」（上）（下）完『同盟時報』（同盟通信社）第 114 号（昭和 27 年 7 月刊）、第 115 号（昭和 27 年 8 月刊）

##### 昭和 28 (1953) 年

・恒藤恭（1888～1967）「学究生活の回顧」（上）（下）完『思想』第 343 号（昭和 28 年 1 月刊）、第 344 号（昭和 28 年 2 月刊）（註：後『現代随想全集』第 27 巻（創元社、昭和 30 年 3 月 30 日刊）に再録。）

（末川博・恒藤恭等 11 氏『学究生活の思い出』（金田一京助著者代表、宝文館、昭和 29 年 6 月 1 日刊）中の恒藤恭「学究生活の回顧」（17～41 頁。栗生先生関連記載：22、23、26～28 頁））（最終部分、平成 21 年 4 月 11 日追加）

##### 昭和 31 (1956) 年

・末川博（1892～1977）「法律学・わが師わが友」『法学セミナー』創刊号（No.1、昭和 31 年 4 月 1 日刊。9 頁）（註 1：後、末川博『法律の内と外』（有斐閣、昭和 39 年 6 月刊）181 頁、『末川博随想全集』第 9 巻「思い出の人と私の歩み」（栗田出版会、昭和 47 年刊）等に再録。）（註 2：末川博「学究生活の思い出」『思想』340 号（昭和 27 年 10 月刊）参照。）（平成 20 年 12 月 15 日、平成 21 年 2 月 20 日各一部修正）

・佐々木惣一（1878～1965）「京のメロンと仙台の花」『道草記』（甲鳥書林新社、昭和

31年6月30日刊) (231頁以下)

#### 昭和32(1958)年

- ・小町谷操三(1893~1979)「定年退官の辞(註:東北大学)」(昭和31年2月8日)
- 小町谷操三『統一船荷証券法論』(勁草書房、昭和32年4月1日刊)附録(501頁)

#### 昭和36(1961)年

- ・羽田武嗣郎(1903~1979、羽田孜(1935~2017)元首相厳父)「おもかげを偲ぶ」『前田米蔵伝』(前田米蔵伝記刊行会、昭和36年12月25日刊。前田米蔵:1882~1954)614頁(羽田氏は東北大で栗生先生の教えを受けたが、その相弟子の高橋進太郎氏(1902~1984、元行政管理庁長官、宮城県知事)と栗生先生の関係等が記載されていて貴重。内藤丈二先生の御教示を受く。厚く感謝の意を表するものである。⇒「4(3)栗生武右衛門氏関連」参照。) (平成21年6月13日追加)

#### 昭和38(1963)年

- ・恒藤恭(1888~1967)「忘れえぬ人々その1 栗生武夫君の追憶一」『法律時報』第35巻第1号(昭和38年刊)
- ・瀧川幸辰先生記念会『瀧川幸辰 文と人』(非売品、世界思想社、昭和38年11月刊。瀧川幸辰:1891~1962)209頁「光陰矢の如し」(註:後、世界思想社より改編改題し、瀧川春雄(1918~1979)編『ある生涯 瀧川幸辰一文と人一』(昭和40年11月20日刊)として公刊(209頁)。) (平成20年10月19日修正)

#### 昭和42(1967)年

- ・西本穎(1904~1982)「栗生博士の業績をたたえて」『法制史研究』16(1966)(昭和42年3月30日刊)

#### 昭和57(1982)年

- ・齋藤秀夫(1904~2003)「栗生武夫」『宮城県百科事典』(河北新報社、昭和57年4月23日刊)

### イ 関連

#### 明治37(1904)年

- ・鳥海安治編『東西両京之大学』(法科之部・斬馬劍禪)(編集兼発行者:鳥海安治、明治37年1月7日刊。後に、斬馬劍禪『東西両京の大学—東京帝大と京都帝大—』(講談社学術文庫、昭和63年11月10日刊)として復刻。斬馬劍禪は五来欣造(素川)のことか、1875~1944)(平成20年9月28日修正)(国立国会図書館近代デジタルライブラリー <<http://kindai.ndl.go.jp/>> ⇒ <<https://dl.ndl.go.jp/ja/pid/809035>> 参照。)

#### 明治41(1908)年

- ・千朶木仙史編『学界文壇時代之新人』(天地堂、明治41年6月26日刊)237~284頁「京都法科大学諸教授」(国立国会図書館デジタルコレクション) <<https://dl.ndl.go.jp/>> に収録。⇒ <<https://dl.ndl.go.jp/ja/pid/777987>> ) 参照のこと。(令和4(2022)年6月28日追加)

### 大正 14 (1925) 年

・『東北帝国大学一覽』（大正 14 年度版～昭和 18 年度版）（東北帝国大学、大正？年～昭和？年刊）

〈<https://ndlsearch.ndl.go.jp/search?cs=bib&display=panel&f-ht=ndl&keyword=%E3%80%8E%E6%9D%B1%E5%8C%97%E5%B8%9D%E5%9B%BD%E5%A4%A7%E5%AD%A6%E4%B8%80%E8%A6%A7%E3%80%8F>〉

・高窪（喜八郎, 1873～1963）博士監修『法律年鑑』第 1 卷（大正 13 年版）～第 15 卷（昭和 14 年版）（法律評論社、大正 14 年～昭和 14 年刊）

### 昭和 3 (1928) 年

・「東大法学部の人々（下）」中「中田薫教授」『法律春秋』第 3 巻第 10 号（昭和 3 年刊。中田薫：1877～1967）

・「学界風聞記 東北大学法文学部」『経済往来』第 3 巻第 12 号（昭和 3 年刊）（ただし、栗生先生のものはなし。）（平成 20 年 3 月 14 日追加）

### 昭和 6 (1931) 年

・来間恭「京大展望 『転落』 への下りか上りか」『大阪毎日新聞』昭和 6 年 5 月 11 日～7 月 28 日（栗生先生関係記載あり。）（平成 22 年 10 月 12 日追加）

（神戸大学附属図書館デジタルアーカイブ「新聞記事文庫」：人物伝記（4-026））

〈<http://www.lib.kobe-u.ac.jp/das/SearchServlet>〉

〈[http://www.lib.kobe-u.ac.jp/das/jsp/ja/ContentViewM.jsp?METAID=10086839&TYPE=HTML\\_FILE&POS=1](http://www.lib.kobe-u.ac.jp/das/jsp/ja/ContentViewM.jsp?METAID=10086839&TYPE=HTML_FILE&POS=1)〉

「[京大] 法学部講師の中に大阪商大学長河田嗣郎博士、米田庄太郎博士、東北大教授栗生武夫博士、京大文学部の異彩たる落合太郎学士等がきらめいている。河田博士は暹塞以前の京大経済学部で輝いた人。米田博士と落合学士には文学部の項でレンズを向けることにする。ただここで逸し難いのは栗生博士である。彼は仙台からわざわざ西洋法制史の講義にやって来るだけあって、その講義には多分に異色がある。彼の法制史は、内容的には西洋民法史という方が適切であるが、その立場と方法が新興法学のそれに近いことは、最近法学界の名著と呼ばれた「婚姻立法における二元主義の抗争」によっても明らかである。穂積重遠博士の推奨した「離婚原因の拡大史」も離婚法の発達を経済関係から説いたものである。京大でも彼の珠玉的な講義が熱心な学生を集めている。」

### 昭和 7 (1932) 年

・「大学教授室」『時事新報』昭和 7 年 1 月 8 日～1 月 16 日（栗生先生関係記載あり。）（平成 22 年 10 月 12 日追加）

（神戸大学附属図書館デジタルアーカイブ「新聞記事文庫」：人物伝記（5-002））

〈[http://www.lib.kobe-u.ac.jp/das/jsp/ja/ContentViewM.jsp?METAID=10086840&TYPE=HTML\\_FILE&POS=1](http://www.lib.kobe-u.ac.jp/das/jsp/ja/ContentViewM.jsp?METAID=10086840&TYPE=HTML_FILE&POS=1)〉

「栗生武夫博士 法文学部きっての尖端人として自他共に許している栗生武夫博士は法史学の大家、「ビザンチン期に於ける親族法の発達」をものして学位を得たと云う、婚姻法に関する名誉として学界にセンセーションをまき起した「婚姻の近代化」は、新しき時代の性秩序への上向であると自称する如く、十九世紀初頭より今日に至るまでの婚姻法を詳細

に分析し、究明して牢固として抜くべからざる体系を与え、その発達過程を明かにしている点日本に於ける最も進歩的なものといえよう、博士にいわしむれば、婚姻法はロシアに於て漸く自由主義的色彩を帯びて来たのみで、他の国では未だ中世的遺風におおわれている、日本の婚姻法等推して知るべしだと、黄色い声をはりあげてウルトラモダンボーイの啖呵を切るのだ、こうして論議が愈々得意の段に入ると右手を余り高くもない鼻の頭に持って行くのである、新しいことなら何でも来いと、早速実践に移す博士昨今東一番丁のベビーゴルフ場に通いつめているが、その博士が高等学校時代には三味線に熱中したというのだから、聞く人皆微笑するのだが、多分この頃は三味線が鳴り物の流行のトップを切っていたんだろうという話」

・宮川彰「『学者の学問』物語（一）—諸教授の方法論—（栗生武夫・法文・教授）」『東北帝大法文時報』第51号（昭和7年6月25日刊）（未見。東北大学史料館の収蔵の由。）  
（平成27年10月21日追加）

〈<http://www2.archives.tohoku.ac.jp/data/gakuyu06-hobunjiho.pdf>〉

〈<http://www2.archives.tohoku.ac.jp/>〉

#### 昭和8（1933）年

・「京大法学部総崩 瀧川問題」 『東京日日新聞』昭和8年5月27日（『新聞集成 昭和編年史』昭和8年度版）

#### 昭和10（1935）年

・末弘巖太郎（1888～1951）責任編輯『法律年鑑』昭和10年版～昭和18年版（日本評論社、昭和10年～昭和19年刊）

・X・Y・Z「美濃部博士その他—自由主義学者総評—」 『経済往来』第10巻第4号（昭和10年4月1日刊）99、100頁「東北大学では京大事件以来栗生武夫教授が名を出した。相当の年輩の教授であるが、頭脳は思ひの他瑞々しく、法史学以外にも驥足を伸ばしてゐる。理論は自由主義に定まってゐるとも云へないが、気持や態度はすっかり自由主義者である。」（平成20年3月25日追加）

（参考）『経済往来』「人物評論」欄「XYZ」のペンネームは、河合栄治郎、土方成美、本位田祥男三氏（交代執筆）との由。（令和3年3月3日追加）

〈<https://www.sankei.com/smp/premium/news/160430/prm1604300001-s2.html>〉

#### 昭和11（1936）年

・東北帝国大学庶務課編『創立二十五周年記念 東北帝国大学ノ昔ト今』（東北帝国大学、昭和11年刊）

#### 昭和13（1938）年

・戒能通孝（1908～1975）「昭和十三年法学界の回顧と展望（法制史）」 上記末弘巖太郎責任編輯『法律年鑑』（昭和13年版）

・林純平（?～?）『関西学界展望』（文友堂書店、昭和13年6月16日刊）

#### 昭和14（1939）年

・堀米庸三（1913～1975）「昭和十三年度に於ける我国西洋史学界の状況」 『史学雑誌』第50編第5号（昭和14年刊）

### 昭和 15 (1940) 年

・久保正幡 (1911~2010) 他「昭和十四年の法制史学界」 『法学協会雑誌』 第 58 卷第 1 号 (昭和 15 年刊)

### 昭和 17 (1942) 年

・原田慶吉 (1903~1950) 「我が国に於ける外国法史学の発達」 『東京帝国大学学術大観 (法学部・経済学部)』 (東京帝国大学、昭和 17 年 4 月 13 日刊)

〈<https://dl.ndl.go.jp/ja/pid/1879592/1/4>〉

〈<http://home.q02.itscom.net/tosyokan/data/HARADA007.html>〉 (令和 3 年 3 月追加⇒令和 5 (2023) 年 12 月 31 日閉館)

・「学界消息」 (29 頁) 金沢理康康 (1903~1948) 「書評・ズーム『フランク法とローマ法』 (久保 (正幡)・世良 (晃志郎) 両氏訳)」 『法律時報』 第 14 卷第 6 号 (昭和 17 年刊)

### 昭和 18 (1943) 年

・戒能通孝 (1908~1975) 『法律社会学の諸問題』 (序にかへて) (日本評論社、昭和 18 年 1 月刊)

・『大衆人事録』 第 14 版 帝国秘密探偵社 (註: 昭和 62 年に(株)日本図書センターより『昭和人名辞典』 第 2 巻として復刊。栗生先生掲載としては最後あたりのものと思われる。)

・『京都帝国大学史』 (京都帝国大学、昭和 18 年 12 月 20 日刊)

### 昭和 20 (1945) 年

・『中訳日文書目録』 (国際文化振興会、昭和 20 年 2 月 20 日刊) (註: 實藤恵秀執筆に係るもので、56 頁に「栗生武夫 婚姻法の近代化 (訳者) 胡長清 商務 (印書館)、民国 24 (1935) 年刊」の記載あり。) (平成 19 年 12 月 21 日追加)

### 昭和 23 (1948) 年

・久保正幡 (1911~2010) 「西洋法制史学界の展望」 『人文』 第 2 卷第 1 号 (昭和 23 年刊)

・三戸壽 (1908~1971) 『近代法成立史序説』 (国立書院、昭和 23 年刊)

### 昭和 25 (1950) 年

・日本評論社出版局編『日本の法学一回顧と展望一』 (日本評論社、昭和 25 年 10 月刊)

・久保正幡 (1911~2010) 他『法学研究の栞』 上 (東京大学学生文化指導会、昭和 25 年刊)

・猪熊兼繁 (1902~1979) 「法史学の建設」 (57 頁) 『法律文化』 第 4 卷第 1 号 (昭和 25 年刊) 57 頁

### 昭和 27 (1952) 年

・『京都大学学位録』 (大正 10 年~昭和 26 年) (京都大学、昭和 27 年刊) 2 頁

### 昭和 28 (1953) 年

・『東北大学法文学部略史』 東北大学法文学部略史編纂委員会、昭和 28 年刊) 10、35、92 頁

### 昭和 29 (1954) 年

・恒藤恭 (1888~1967) 監修『法・法学年表 (日本)』 (『法律学体系』 第 2 部・法学理

論篇 26) (日本評論新社、昭和 29 年 7 月刊)

#### 昭和 32 (1957) 年

・吾妻京一郎「東北大学法学部一(法学部めぐり・6)」『法学セミナー』昭和 32 年 1 月号(註: 吾妻は清水英夫氏(1922~2013)の筆名(『法学セミナー』第 500 号参照)。後、吾妻京一郎『法学部物語』(一粒社、昭和 33 年 7 月 1 日刊)に収録。昭和 31 年 11 月号までは青地農氏(1909~1984)が執筆。) (平成 20 年 3 月 25 日一部修正)

#### 昭和 35 (1960) 年

・『東北大学五十年史』(上、下) (東北大学、昭和 35 年 1 月刊)  
・『田村徳治』田村会編(昭和 35 年 11 月刊。田村徳治: 1886~1958) (註: 未見) ⇒ (平成 26 年 7 月 16 日追加、修正)  
⇒『田村徳治』(田村会、昭和 35 年 11 月 24 日刊。田村徳治: 1886~1958) 32~33 頁(恒藤恭)、39、42 頁(瀧川幸辰)、60~61 頁(西本頼)、155 頁(三戸寿)、383、402 頁(追悼座談会: 末川博、吉富重夫)(神戸学院大学「高田保馬文庫」本に拠る。平成 26 年 7 月 16、17 日修正、追加。)

#### 昭和 36 (1961) 年

・中川善之助(1897~1975)『北向きの部屋—学生とともに四十年—』(日本評論新社、昭和 36 年刊) 38 頁

#### 昭和 37 (1962) 年

・『日本学士院八十年史』(本編、資料編 2) (日本学士院、本編: 昭和 37 年 3 月 21 日刊、資料編 2: 昭和 37 年 3 月 31 日刊)  
・『廣濱(嘉雄)先生追悼記念論集 法と法学教育』(勁草書房、昭和 37 年 8 月 3 日刊。廣濱嘉雄: 1891~1960) 570 頁

#### 昭和 38 (1963) 年

・恒藤恭(1888~1967)「忘れえぬ人々—その 2 橋本文雄君の追憶—」『法律時報』第 35 卷第 2 号(昭和 38 年刊。橋本文雄: 1902~1934)  
・恒藤恭(1888~1967)「忘れえぬ人々—その 5 淵定君の追憶—」『法律時報』第 35 卷第 5 号(昭和 38 年刊。淵定: 潤, 1909~194)

#### 昭和 40 (1965) 年

・野村平爾(1902~1979)「戦前の民主主義法学・覚え書」(55 頁)『法律時報』第 37 卷第 5 号(昭和 40 年刊) 55 頁

#### 昭和 41 (1966) 年

・伊達秋雄(1909~1994)「法律家の哀歎」岩波講座『現代法 6—現代の法律家—』(岩波書店、昭和 41 年刊) 月報(註: 後に、伊達秋雄『法律家の哀歎』(有斐閣、昭和 61 年 11 月 20 日刊) 34~39 頁に収録。) (平成 27 年 10 月 21 日一部修正)

#### 昭和 42 (1967) 年

・我妻栄 末川博 瀧川幸辰〔談〕 利谷信義 乾昭三 木村静子編『法律学と私』(日本評論社、昭和 42 年 5 月 10 日刊)(「瀧川幸辰に聞く」の項: 255 頁)(我妻栄: 1897~1973、末川博: 1892~1977、瀧川幸辰: 1891~1962、利谷信義: 1932~2019、乾昭三: 1928~2003、木村静子: 1927~) (平成 20 年 10 月 18 日修正)



・『京都大学七十年史』（京都大学、昭和 42 年 11 月 3 日刊）（平成 20 年 3 月 27 日修正）

・『ジュリスト年鑑 1967 年版』（臨時増刊昭和 42 年 6 月 25 日号）中の「法学博士一覧表」（570 頁）（平成 20 年 10 月 18 日修正）

#### 昭和 43（1968）年

・中川善之助（1897～1975）、清水英夫（1922～2013）編『読書案内 法学』（現代教養文庫、社会思想社、昭和 43 年 3 月 30 日刊）272 頁

#### 昭和 45（1970）年

・宇野弘蔵（1897～1977）『資本論五十年』（上）（法政大学出版局、昭和 45 年 2 月 16 日刊）（註：栗生先生との交友関係が詳しい。249、250、482、483、485、493、533、544 頁。）（本書については、特に小山貞夫先生より貴重な御教示を賜わった。）

・谷口知平（1906～1989）「民法研究 40 年 大阪市立大学退職記念講演」『法学セミナー』第 173 号（昭和 45 年 7 月 1 日刊）82、85 頁（平成 21 年 2 月 16 日追加）

・末川博・我妻榮「対談 日本の法学者を語る・蒲郡対談・連載第 3 回」『法学セミナー』第 178 号（昭和 45 年 12 月 1 日刊）101 頁（平成 21 年 2 月 16 日追加）

#### 昭和 47（1972）年

・佐藤篤士（1934～2006）：「ヨーロッパ法史」杉山晴康、佐藤篤士『法史学』（評論社、昭和 47 年 5 月刊）262 頁（平成 20 年 10 月 18 日修正）

・末川博（1892～1977）『思い出の人と私のあゆみ 末川博随想全集 第 9 巻』（栗田出版会、昭和 47 年 8 月 25 日刊）255、311、502、535 頁（平成 20 年 10 月 18 日追加）

#### 昭和 48（1973）年

・『金沢法学』第 18 巻第 1、2 合併号（三戸寿博士追悼論文集）（昭和 48 年刊）（註：平成 11（1999）年夏、三戸博士御令室綾子様より、栗生先生と三戸博士との御関係について、書簡にて御教示を賜る機会に恵まれた。）

・田中周友（1900～1996）「故三戸壽教授」第『法制史研究』22（1972）（昭和 48 年 3 月 30 日刊）

#### 昭和 51（1976）年

・『中川善之助 人と学問』『法学セミナー』昭和 51 年 4 月臨時増刊

#### 昭和 53（1978）年

・『会員名簿 昭和五十三年 第七高等学校造士館同窓会』（七高同窓会、昭和 53 年 10 月 10 日刊）（平成 26 年 7 月 2 日追加）

#### 昭和 54（1979）年

・『追想の青山道夫—民主主義と家族法—』（法律文化社、昭和 54 年 11 月刊。青山道夫：1902～1978）165 頁

#### 昭和 56（1981）年

・熊谷開作（1920～1990）他編『日本法史年表』（日本評論社、昭和 56 年 3 月刊）

#### 昭和 57（1982）年

・『今中次麿—生涯と回想—』（法律文化社、昭和 57 年 4 月 15 日刊。今中次麿：1893～1980）30 頁

## 昭和 59 (1984) 年

・上山安敏 (1925～2021) 「西本穎先生を悼む」『法制史研究』33 (1983) (昭和 59 年 3 月 30 日刊)

・社会経済史学会編『社会経済史学会五十年の歩み 五十年史と回顧・総目次』(社会経済史学会、昭和 59 年刊)

・潮木守一 (1934～2023) 『京都帝国大学の挑戦—帝国大学史のひとこま—』(名古屋大学出版会、昭和 59 年刊) (註: 後、増補の上、『京都帝国大学の挑戦』(講談社学術文庫、平成 9 年 9 月 10 日刊) として復刻。)

(参考) ただし、前掲千朶木仙史編『学界文壇時代之新人』(天地堂、明治 41 年 6 月 26 日刊) 237～284 頁「京都法科大学諸教授」(国立国会図書館デジタルコレクション) <<https://dl.ndl.go.jp/>> に収録。⇒ <<https://dl.ndl.go.jp/ja/pid/777987>> ) 参照のこと。

(令和 4 (2022) 年 6 月 28 日追加)

## 昭和 62 (1987) 年

・岩野英夫 (1944～) 「わが国における法史学の歩み (1873—1945) —法制史関連科目担任者の変遷—」『同志社法学』第 39 卷第 1・2 号 (第 200 号記念論集 I、昭和 62 年 7 月 31 日刊) <<http://ci.nii.ac.jp/naid/110000588862>> (⇒「平成 14 (2002) 年」の項参照。)

## 平成 8 (1996) 年

・上山安敏 (1925～2021) 『栗生武夫先生・船田享二博士・小早川欣吾先生著作等目録稿 (三訂版)』序文 (自己出版、平成 8 年 2 月 1 日刊) (後、『栗生武夫先生略年譜・著作目録 (四訂稿)』(自己出版、平成 10 年 2 月 15 日刊) に再録。)

・『栗生武夫先生随筆拾遺—栗生武夫先生単行本未収録論稿集第 1 輯—』(平成 8 年 8 月 1 日刊。『小早川欣吾先生東洋法制史論集』(平成 8 年 6 月 25 日刊) 編纂の試作として編集するも未刊。) ⇒令和 4 (2022) 年 6 月 27 日 (月) 本 HP 別稿として、PDF 版『栗生武夫先生随筆拾遺—栗生武夫先生単行本未収録論稿集第一輯—』を掲載した。

<[https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/kuryu\\_zuihitsu\\_shui\\_002.pdf](https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/kuryu_zuihitsu_shui_002.pdf)> (令和 4 (2022) 年 6 月 28 日追加)

## 平成 9 (1997) 年

・柴田光蔵 (1937～2022) 「田中周友先生を偲ぶ」『有信会誌』(註: 京都大学法学部同窓会誌) 第 39 号 (平成 9 年 3 月 30 日刊)

・『京都大学百年史 部局史編 1』(京都大学後援会、平成 9 年 9 月 30 日刊) 311、312 頁)

## 平成 10 (1998) 年

・岩野英夫 (1944～) 「栗生武夫の法律観について—明治末から大正末までの時代を中心に—」『同志社法学』第 49 卷第 5 号 (第 257 号、平成 10 年 3 月 20 日刊)

・上山安敏 (1925～2021) 「田中周友先生を偲ぶ」『法制史研究』47 (1997) (平成 10 年 3 月 30 日刊)

・久保正幡 (1911～2010) 『久保正幡略年譜・主要著作目録』(「付属写真集」あり。洋販〈製作〉、平成 10 年 10 月 20 日刊)

### 平成 11 (1999) 年

・岩野英夫 (1944～) 「栗生武夫の『法制史観』について—大正の初めから昭和 5 年頃までの時代を中心にして—」『阪大法学』第 49 巻第 3・4 号 (通巻第 201・202 号、平成 11 年 11 月 30 日)

### 平成 12 (2000) 年

・岩野英夫 (1944～) 「法における歴史と現代の法学教育」『法律時報』第 72 巻第 4 号 (平成 12 年 4 月 1 日) (註: 同教授は、平成 11 年 12 月 18 日関西大学で開催された学術会議 50 周年記念シンポジウムにおいて、「法における歴史と現代の法学教育」なる表題の講演をされ、その中で、法制史教育の対象となる学者として、栗生先生と世良晃志郎教授のお二方をあげて検討された。)

### 平成 13 (2001) 年

・世界思想社編集部編『瀧川事件 記録と資料』 (世界思想社、平成 13 年 8 月 30 日刊) 62、294、744、757 頁

・岩野英夫 (1944～) 「ワイマール期法学教育改革と法史学—栗生武夫の体験を追体験する—」『同志社法学』第 52 巻第 6 号 (第 276 号、平成 13 年 3 月 31 日)

### 平成 14 (2002) 年

・研究代表者岩野英夫 (1944～) 『法学教育における法史学の存在価値—わが国における法史学の成立と展開との関連で—』平成 11 年度—平成 13 年度科学研究費補助金 (基盤研究 (C) (2)) 研究成果報告 (3 月刊) (註: これには、前掲岩野英夫「わが国における法史学の歩み (1873—1945) —法制史関連科目担任者の変遷—」『同志社法学』第 39 巻第 1・2 号 (第 200 号記念論集 I、昭和 62 年 7 月 31 日刊) の修正版が収録されている。)  
(参考: <<http://ci.nii.ac.jp/naid/110000588862>> )

・関口安義 (1935～2022) 『恒藤恭とその時代』 (日本エディタースクール、平成 14 年 5 月 30 日刊) (註: 栗生先生については同書「人名索引」を参照。恒藤博士に関しては、竹下賢、角田猛之編『恒藤恭の学問風景—その法思想の全体像—』 (法律文化社、平成 11 年 4 月 10 日刊) 参照。特に 197 頁以下の文献一覧が貴重。)

### 平成 15 (2003) 年

・東北大学百年史編集委員会『東北大学百年史 4 (部局史 1)』 (東北大学研究教育振興財団、平成 15 年 5 月 31 日刊) (平成 19 年 12 月 21 日追加)

・わが国における法史学の歩み研究会 (代表 岩野英夫) 「聞き書き・わが国における法史学の歩み (2) —井ヶ田良治先生にお聞きする—」『同志社法学』第 55 巻第 1 号 (第 292 号、平成 15 年 5 月 31 日) (363 頁に、追記③として工藤祐董教授 (1923～) の栗生先生関係の話を載せる。この部分は、上記平成 14 年の岩野英夫報告書 25、26 頁にも記載する。)

・伊藤孝夫 (1962～) : 『瀧川幸辰—汝の道を歩め—』 (ミネルヴァ書房、平成 15 年 10 月 10 日刊) (註: 同書 67 頁所載写真「ベルリンでの佐々木 (惣一) ・瀧川・在独日本人たち」中に若き日の栗生先生の姿がある可能性が大。67 頁の記述参照。現在当該写真を検討中であるが未だ不明。)

<<https://www.minervashobo.co.jp/book/b48516.html>>

#### 平成 16 (2004) 年

- ・広川禎秀 (1941～) 『恒藤恭の思想史的研究』 (大月書店、平成 16 年 2 月 27 日刊)
- ・「109-19 ゼッケル文庫」『日本の大学所蔵特殊文庫解題目録』 (ドイツ-日本研究所文献目録シリーズ 8 2004 年。ゼッケル: 1864～1924) (109 東北大学附属図書館。ドイツ語・日本語併記。発行: ドイツ-日本研究所、発行月日: 未記載) (2004 Koch、Matthias Vol. 8: Universitäre Sondersammlungen in Japan - Eine deutsch-japanische annotierte Bibliographie) <<http://tksosa.dijtokyo.org/?lang=ja>> <[http://tksosa.dijtokyo.org/?page=collection\\_detail.php&p\\_id=473](http://tksosa.dijtokyo.org/?page=collection_detail.php&p_id=473)>

#### 平成 17 (2005) 年

- ・松尾尊兌 (1929～2014) 『滝川事件』 (岩波書店 (岩波現代文庫)、平成 17 年 1 月 18 日刊) 128、219、223、257 頁
- ・わが国における法史学の歩み研究会 (代表 岩野英夫) 「聞き書き・わが国における法史学の歩み (5) 一塙浩先生の法史学を語る一」『同志社法学』第 57 巻第 3 号 (第 308 号、平成 17 年 9 月 30 日刊) (平成 15 (2003) 年 12 月 23 日、同志社大学での座談会の内容を収録、参加者: 上山安敏、西村重雄、瀧澤栄治、三成美保、司会・総括: 岩野英夫) (栗生先生については、特に「7 上山安敏」中 285、286 頁の〔栗生武夫〕参照。) <<http://ci.nii.ac.jp/naid/110001900102>>

#### 平成 19 (2007) 年

- ・東北大学百年史編集委員会『東北大学百年史 1 (通史 1)』 (東北大学研究教育振興財団、平成 19 年 12 月刊) (平成 19 年 12 月 21 日追加)

#### 平成 23 (2011) 年

- ・わが国における法史学の歩み研究会 (代表) 岩野英夫「聞き書き・わが国における法史学の歩み (八) 一三浦澄雄先生にお聞きする一」『同志社法学』第 345 号 (平成 23 年 1 月 31 日刊) 158 頁 (三戸寿教授との関連で。三浦澄雄: 1931～2008) (平成 23 年 12 月 18 日追加) <<http://ci.nii.ac.jp/naid/110008727287>>

#### 平成 25 (2013) 年

- ・大村敦志 (1958～) 『穂積重遠 社会教育と社会事業とを両翼として』 (ミネルヴァ書房、平成 25 年 4 月 10 日刊) 144、285 頁 (久保正幡博士関係: 同書 208～209 頁) (平成 26 年 11 月 25 日追加)
- ・『CD 版 春木一郎博士・原田慶吉教授・田中周友博士・船田享二博士・武藤智雄教授・千賀鶴太郎博士・戸水寛人博士略年譜・著作目録—日本ローマ法学七先生略年譜・著作目録 (新訂版) — ローマ法・法制史学者著作目録選 (第十輯) —』 (平成 25 (2013) 年 9 月 1 日刊。千賀鶴太郎博士は栗生武夫博士の最初の指導教授。) (平成 26 年 7 月 2 日追加) <<http://ci.nii.ac.jp/ncid/BA64090131>> ⇒ <<http://ci.nii.ac.jp/ncid/BB13864295>>

#### 平成 30 (2018) 年

- ・『CD 版 ローマ法、法制史、明治警察史及び日本統治下台湾警察史の諸問題—ローマ法・法制史学者著作目録選第十三輯—明治警察史雑纂第四輯—日本統治下台湾警察史雑纂第八輯—』 (平成 30 (2018) 年 1 月 1 日刊。「栗生武夫先生略年譜・著作目録 (七訂稿)」

を収録する。) (令和3(2021)年11月5日追加)

〈<https://ndlsearch.ndl.go.jp/books/R100000002-I028881423>〉

・小川知幸「東北帝国大学附属図書館の蔵書形成－特殊文庫の成立をめぐる－」『図書館文化史研究』第35号(平成30年9月刊)(ゼッケル文庫と栗生博士の関係について詳しい。) (令和3年2月26日追加)

〈[https://tohoku.repo.nii.ac.jp/?action=pages\\_view\\_main&active\\_action=repository\\_view\\_main\\_item\\_detail&item\\_id=127903&item\\_no=1&page\\_id=33&block\\_id=38](https://tohoku.repo.nii.ac.jp/?action=pages_view_main&active_action=repository_view_main_item_detail&item_id=127903&item_no=1&page_id=33&block_id=38)〉

#### 令和4(2022)年

・佐藤団「西本頼と黎明期の西洋法制史学」(一)、(二)・完『法学論叢』第190巻第4、5号(令和4(2022)年1、2月刊)(一)5頁註7(令和4(2022)年6月28日追加)

・『CD版 宮崎道三郎博士・小林宏先生・西村稔先生・高橋由利子先生略年譜・著作目録一【参考篇】【附篇】一ローマ法・法制史学者著作目録選(第十五輯)一』(令和4(2022)年4月1日刊)に「栗生武夫先生略年譜・著作目録(九訂稿)」収録した。(令和4(2022)年6月28日追加)

〈<https://ndlsearch.ndl.go.jp/books/R100000002-I032127903>〉

#### 令和6(2024)年

・『CD版 上山安敏先生・柴田光蔵先生・西村稔先生・宮崎道三郎博士・池辺義象氏・小林宏先生・千賀鶴太郎博士・戸水寛人博士略年譜・著作目録 附録:「日本ローマ法・法制史学者等略年譜・著作目録・追悼辞」掲載資料抄(追補)中田薫博士・瀧川政次郎博士・三浦周行博士・牧健二博士各関係資料抄 一ローマ法・法制史学者著作目録選(第十六輯)一』(CD版、令和6(2024)年1月1日刊)(令和6(2024)年3月20日追加)

・伊藤孝夫(1962～)『佐々木惣一 論理ノ正確ハ法理探究ノ目標ナリ』(ミネルヴァ書房、令和6(2024)年2月10日刊)(令和6(2024)年3月20日追加)

〈<https://www.minervashobo.co.jp/book/b639427.html>〉



## ウ 栗生武右衛門氏（厳父、1853～1936）関連

（※：国立国会図書館近代デジタルライブラリー ⇒国立国会図書館デジタルコレクション 〈<https://dl.ndl.go.jp/>〉 に収録。）

### 明治 35（1902）年

※・須藤藹山（愛司）『名士名家の夫人』（東京・大学館、明治 35 年 11 月 23 日刊）50～52 頁（復刻版『列伝叢書』1（大空社、平成 5 年 10 月 25 日刊））

### 明治 41（1908）年

・「実業界十傑 栗生武右衛門（23 位）」『国民??』（??）明治 41 年 5 月 14 日（『新聞集成 明治編年史 第 13 卷』（財政経済学会、昭和 11 年 5 月 25 日刊）425、426 頁に再録。）（平成 21 年 7 月 26 日追加）

※・鈴木貞次郎編纂『最近実業界の成功者』（精華堂書店、明治 41 年 10 月?日刊）118、119 頁（「相場師界の一偉人 栗生武右衛門」）

### 明治 42（1909）年

※ 柳元静馬編輯『財界名士失敗談 上巻』（毎夕新聞社、明治 42 年 5 月 22 日刊）218～222 頁（「栗生武右衛門氏」）

### 明治 44（1911）年

・『実業家人名辞典』（東京実業通信社、明治 44 年 10 月 25 日刊）「ク之部」1 頁（復刻本：『日本人物情報大系』第 32 卷（企業家編 2、皓星社、平成 12 年 3 月 15 日刊）224 頁）（参考 1: 養子栗生藤三につき『日本人物情報大系』第 35 卷（企業家編 5、皓星社、平成 12 年 3 月 15 日刊）116 頁、同栗生朝二につき同 117 頁各参照。参考 2: 養子栗生鴻之助につき『学士院会員氏名録』（『学士会報』第 309 号ノ 2（大正 7 年 11 月 25 日臨時増刊）333 頁: 栗生鴻之助 明 36 東大工（船機）神田区久衛門町 1-4）（平成 19 年 8 月 9 日追加）

※・日本取引所研究所『兜街繁昌記 附 米屋町繁昌記』（壬子出版社、明治 45 年 6 月刊）（口絵に、「東京市日本橋区兜町六番地 山栗印 栗生武右衛門商店」の広告あり。栗生武右衛門氏の肖像と当時有名であった鰐橋河畔の三層楼の写真あり。貴重）（近代デジタルライブラリーにあり。（<http://kindai.ndl.go.jp/>））

### 大正 2（1913）年

・「山栗商店の破綻及整理 其 1～其 6」（1: 時事新報大正 2 年 7 月 5 日、2: 中外商業新報大正 2 年 7 月 7 日、3: 中外商業新報大正 2 年 7 月 11 日、4: やまと新聞大正 2 年 10 月 26 日、5: 中外商業新報大正 3 年 4 月 8 日、6: 中外商業新報大正 3 年 7 月 1 日）（神戸大学附属図書館デジタルアーカイブ「新聞記事文庫」中「山栗商店」で検索。うち、1、2 には、小泉策太郎（三申）の資産関連について興味深い記述あり。（<http://www.lib.kobe-u.ac.jp/sinbun/>）（平成 20 年 8 月 25 日追加）

### 大正 4（1915）年

・「栗生武右衛門」『大正名家録』（二六社編纂局、大正 4 年 8 月 25 日刊）「クの部」22 頁

（下記 HP「近代名士家系大観」中「栗生武右衛門」、「栗生鴻之助」（平成 26 年 9 月 10

日アップ) 参照。(平成 27 年 1 月 24 日追加)

#### 大正 13 (1924) 年

・松枝保二「浮沈四十年の栗生武右衛門」『数奇の人、今昔の人』(大正 13 年 6 月 15 日刊) 109~120 頁(栗生氏の分は大正 12 年 7 月 1 日から 9 月 1 日の間に『報知新聞』に掲載されたもの。矢田挿雲(1882~1961)の序あり。)

#### 昭和 4 (1929) 年

・馬場恒吾「小泉策太郎論」『中央公論』第 44 年第 2 号(昭和 4 年、後、馬場恒吾『現代人物評論』(中央公論社、昭和 5 年 9 月 25 日刊) 164~189 頁に再録。)

#### 昭和 6 (1931) 年

・『最新業界人事盛衰録』(商工事情調査会出版部、昭和 6 年 6 月 20 日刊。『昭和戦前財界人人名大辞典』第 2 卷(大空社、平成 5 年 12 月 13 日刊)に復刻。)

#### 昭和 11 (1936) 年

・下村海南(1875~1957)「栗生武右衛門翁」『東京朝日新聞』昭和 11 年 2 月 2 日(『東京朝日新聞縮刷版』昭和 11 年 2 月 28 頁)

・『財界物故傑物伝』上巻(実業之世界社、昭和 11 年 6 月 5 日刊) 477~480 頁、【上 24】頁(復刻本:『人物で読む日本経済史 別巻 1 財界物故傑物伝 上巻』(ゆまに書房、平成 10 年 12 月 18 日刊)) (本書は、栗生武夫先生研究にも貴重な文献である。)(平成 19 年 12 月 10 日一部補正)

・野間清治(1878~1938、講談社創業者)『私の半生』(千倉書房、昭和 11 年 7 月刊) 265、266 頁(その後の刊本あり。『増補 私の半生』(大日本雄弁会講談社、昭和 14 年 12 月 16 日刊) 265、266 頁、『私の半生・修養雑話』(野間教育研究所特別紀要、野間教育研究所、平成 11 年 6 月 22 日刊 191 頁))(平成 20 年 3 月 1 日追加、同年 3 月 14 日修正)

・下村海南(1875~1957)『人口一億 随筆評論集』(第一書房、昭和 11 年 9 月 15 日刊) 363~364 頁(「栗生武右衛門翁」(上記『東京朝日新聞』昭和 11 年 2 月 2 日所載のもの)の再掲、ただし、小泉三申絡みの附記あり。)(坂本慎一(1971~)『玉音放送をプロデュースした男一下村宏』(PHP 研究所、平成 22 年 8 月 3 日刊) 323 頁に拠る。)(平成 23 年 4 月 3 日追加、同年 4 月 17 日一部修正)

#### 昭和 12 (1937) 年

・『日本人名大事典(新撰大人名辞典)』第 2 卷(平凡社、昭和 12 年 7 月 23 日初版第 1 刷刊、昭和 54 年 7 月 10 日復刻版第 1 刷刊)

#### 昭和 13 (1938) 年

・下村海南(1875~1957)『生活改善 随筆評論集』(第一書房、昭和 13 年 12 月 15 日刊) 184~193 頁(「栗生鴻之助君」(1881~1938、栗生武右衛門長女政枝嬢、実業家、十日町町長))(坂本慎一(1971~)『玉音放送をプロデュースした男一下村宏』(PHP 研究所、平成 22 年 8 月 3 日刊) 323 頁に拠る。)(平成 23 年 4 月 3 日追加、同年 4 月 17 日一部修正)

#### 昭和 14 (1939) 年

・栗生武夫「杉浦(重剛)先生」『文藝春秋』昭和 14 年 8 月号(杉浦重剛: 1855~1924)



#### 昭和 24 (1949) 年

- ・杉本寛一『京阪電気鉄道沿革誌』（昭和 24 年 5 月刊）（平成 19 年 12 月 9 日追加）

#### 昭和 28 (1953) 年

- ・下村海南（1875～1957）『我等の暮らし方考え方』（池田書店、昭和 28 年 3 月 5 日刊）51、52 頁（平成 19 年 10 月 22 日追加）

#### 昭和 29 (1954) 年

- ・小山正之助『兜町放談』（住吉書店、昭和 29 年 2 月 15 日刊）40、107、135、138、149、210 頁

#### 昭和 32 (1957) 年

- ・長谷川光太郎『兜町盛衰記』第 1 巻～第 4 巻（日本証券新聞社、昭和 32 年刊。後に、図書出版社再刊、平成 2～3 年刊）

#### 昭和 36 (1961) 年

- ・大澤俊吉『大澤龍次郎翁伝』（埼玉県行田市役所、昭和 36 年 4 月 9 日刊）（註:平成 10 年春下田市飯田十郎氏（小泉三申研究家）の御教示による。）
- ・羽田武嗣郎（1903～1979、羽田孜（1935～2017）元首相厳父）「おもかげを偲ぶ」『前田米蔵伝』（前田米蔵伝記刊行会、昭和 36 年 12 月 25 日刊。前田米蔵: 1882～1954）614 頁（羽田氏は東北大で栗生先生の教えを受けたが、前田米蔵氏と栗生武右衛門氏、下村海南氏（1875～1957）との関係が記載されていて貴重。内藤丈二先生の御教示を受く。厚く感謝の意を表するものである。（⇒「4（1）追悼・回想」参照。）（平成 21 年 6 月 13 日追加）

#### 昭和 41 (1966) 年

- ・小野善太郎（宮本又次校訂）『維新の豪商 小野組始末』（青蛙房、昭和 41 年 1 月 20 日刊）246 頁

#### 昭和 50 (1975) 年

- ・大岡昇平『少年: ある自伝の試み』（筑摩書房、昭和 50 年刊）

#### 昭和 53 (1978) 年

- ・木宮栄彦『小泉三申』（静岡・常葉学園、昭和 53 年 9 月 1 日刊）27、28、303 頁

#### 昭和 58 (1983) 年

- ・林順信『東京市電と街並み』（小学館、昭和 58 年 10 月 31 日刊）35 頁「兜町」の写真（平成 21 年 2 月 16 日追加）

#### 平成 18 (2006) 年

- ・鍋島高明（1936～2021）「栗生武右衛門 ニッポン相場師列伝」『日経金融新聞』平成 18 年 1 月 30 日（月）第 24 面 ⇒同『日本相場師列伝』（日本経済新聞社、平成 18 年 11 月 1 日刊）140～143 頁に改訂の上再録。他に同書 46、203 頁参照。
- ・鍋島高明『相場師秘聞一波瀾曲折の生涯一』（五台山書房、平成 18 年 10 月 20 日刊）

#### 平成 19 (2007) 年

- ・鍋島高明『幸徳秋水と小泉三申 叛骨の友情譜』（高知新聞社、平成 19 年 9 月 15 日刊）115、187 頁（平成 27 年 7 月 25 日追加）

### 平成 20 (2008) 年

- ・鍋島高明「相場師列伝 日露反動相場で巨損の民権家、大矢正夫氏 (08/12/8)」『日経ヴェリタス online』平成 20 年 12 月 8 日 (平成 21 年 2 月 16 日追加)

### 平成 26 (2014) 年

- ・HP「近代名士家系大観」中「栗生武右衛門」、「栗生鴻之助」(平成 26 年 9 月 10 日アップ)

(上記「栗生武右衛門」『大正名家録』(二六社編纂局、大正 4 年 8 月 25 日刊)「クの部」22 頁をアップか?) (平成 27 年 1 月 24 日追加)

〈<http://ameblo.jp/derbaumkuchen/entry-11922965093.html>〉

〈<http://ameblo.jp/derbaumkuchen/entry-11922971097.html>〉

### 平成 30 (2018) 年

- ・人事興信録各年版。ちなみに、近年名古屋大学大学院法学研究科より下記『日本研究のための歴史情報 人事興信録データベース』が公表されている(平成 30 (2019) 年 8 月第 4 版、令和元 (2019) 年 6 月第 8 版各公開)。〈<https://current.ndl.go.jp/node/36453>〉

〈<https://current.ndl.go.jp/node/38304>〉

⇒「栗生武右衛門」：第 4 版(大正 4 (1915) 年 1 月)参照。

〈<https://jahis.law.nagoya-u.ac.jp/who/docs/who4-7937>〉

⇒「栗生鴻之助」：第 4 版(大正 4 (1915) 年 1 月)参照。

〈<https://jahis.law.nagoya-u.ac.jp/who/docs/who4-7939>〉

⇒「栗生藤三」：第 8 版(昭和 3 (1928) 年 7 月)参照。

〈<https://jahis.law.nagoya-u.ac.jp/who/docs/who4-7937>〉 (令和 3 年 11 月 5 日追加)

## エ インターネット関係

- ・「私立玉川用賀村中央図書館（新館）」

現在「栗生武夫電子文庫」を有する和田徹氏のホームページ「私立玉川用賀村中央図書館（新館）」（旧館は平成 13（2001）年 11 月 11 日開館、同 15（2003）年 5 月 10 日閉鎖、新館に移転）が公開されている。ただし、『一法学者の嘆息』は同図書館「梅雨空文庫」に収録されている。このうち、過去には「栗生武夫電子文庫」は時折閉館される場合があったが、現在は開館中である。

（参考）

「私立玉川用賀村中央図書館（新館）」：〈<http://home.q02.itscom.net/tosyokan/>〉

同図書館「梅雨空文庫」：〈<http://home.q02.itscom.net/tosyokan/tuyuzora.htm>〉

⇒（追記：「私立玉川用賀村中央図書館（新館）」は令和 5（2023）年 12 月 31 日閉館（令和 6（2024）年 3 月 20 日追加）

⇒（追記：先に閉館した上記和田徹氏 HP「私立玉川用賀村中央図書館（新館）」は、令和 6（2024）6 月 5 日（水、公開公表日）に再開された。〈<http://tosyokan.my.coocan.jp/>〉（令和 6（2024）年 6 月 9 日追加）

- ・春木一郎電子文庫（和田徹氏寄贈図書）

〈<http://tosyokan.my.coocan.jp/haruki.htm>〉

- ・原田慶吉電子文庫（和田徹氏寄贈図書）

〈<http://tosyokan.my.coocan.jp/harada.htm>〉

- ・栗生武夫電子文庫（和田徹氏寄贈図書）

〈<http://tosyokan.my.coocan.jp/kuryu.htm>〉

- ・いろいろ電子文庫

〈<http://tosyokan.my.coocan.jp/iroiro.htm>〉

- ・梅雨空文庫

〈<http://tosyokan.my.coocan.jp/tuyuzora.htm>〉

\*\*\*\*\*

- ・「東北大学関係写真データベース」

〈<http://webdb3.museum.tohoku.ac.jp/tua-photo/>〉に、「総長選挙後の記念写真（工学部講義室）/昭和 6 年（1931）」（データ No.C002805）が収録されており、同写真に、栗生先生が写っている。）

〈<http://webdb3.museum.tohoku.ac.jp/tua-photo/photo-img-s.php?id=C002805&kw=%C1%ED%C4%B9%C1%AA%B5%F3&mode=0>〉

（平成 23 年 4 月 17 日追加）

- ・「国立国会図書館次世代デジタルライブラリー」（これで再検索の要ありか。）

〈<https://lab.ndl.go.jp/service/tsugidigi/>〉（令和 4（2022）年 4 月 1 日追加）

## オ 関係サイト紹介

### ① 栗生武夫先生『婚姻法の近代化』の中訳本について

(本稿は、『久保正幡先生・小林宏先生・山崎丹照先生略年譜・著作目録—ローマ法・法制史学者著作目録選(第四輯)—』(平成16(2004)年3月1日刊)に附録としたものであるが、その後一、二補正した。)

⇒・本 HP 別稿:「栗生武夫先生『婚姻法の近代化』の中訳本について」参照。

〈[https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/kuryu\\_chuhon.pdf](https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/kuryu_chuhon.pdf)〉(令和4(2022)年4月1日追加)

### ② 『栗生武夫先生随筆拾遺』作成の思い出—『栗生武夫先生随筆拾遺—栗生武夫先生単行本未収録論稿集第一輯』—

(本稿は、『春木一郎博士・原田慶吉教授・田中周友博士・船田享二博士・武藤智雄教授略年譜・著作目録—日本ローマ法学五先生略年譜・著作目録(三訂版)—ローマ法・法制史学者著作目録選(第七輯)—』(平成18(2006)年10月1日刊)の「栞」に掲載したものであるが、その後一、二補正した。)

⇒・本 HP 別稿:「『栗生武夫先生随筆拾遺』作成の思い出—『栗生武夫先生随筆拾遺—栗生武夫先生単行本未収録論稿集第一輯』—」参照。

〈[https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/kuryu\\_zuihitsu\\_shui.pdf](https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/kuryu_zuihitsu_shui.pdf)〉(令和4(2022)年4月1日追加)

### ③ PDF 版『栗生武夫先生随筆拾遺—栗生武夫先生単行本未収録論稿集第一輯』

(本稿は、令和4(2022)年6月27日(月)本 HP 別稿として掲載したものである。)

〈[https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/kuryu\\_zuihitsu\\_shui\\_002.pdf](https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/kuryu_zuihitsu_shui_002.pdf)〉(令和4(2022)年6月28日追加)

(了)

## 【人名索引抄】

### 〔前 記〕

本十二訂稿の「人名索引」そのものは、諸般の事情で未作成である。本【人名索引抄】は、以前『栗生武夫先生・小早川欣吾先生・戴炎輝博士・小林宏先生・山崎丹照先生略年譜・著作目録（二訂版）—内藤吉之助教授・金田平一郎博士著作目録（初稿）—ローマ法・法制史学者著作目録選（第八輯）—』（平成 19（2007）年 1 月 1 日刊。栗生先生分は六訂稿）作成時に準備したものを再掲したにすぎない（ただし、[ ] 内はその後に判明したものを示す。）。このため、七訂稿（平成 29（2017）年 11 月 15 日刊）以降に追加の人物は未記載（ただし一部の人名追加あり。）であって不十分ではあるが、本稿自体は現在は電子版であることから、かなりのものは検索できるのではないかと思う。

（令和 6（2024）年 3 月 20 日追加、同年 6 月 9 日一部修正）

### （邦人）

#### （あ行）

相澤三郎（相澤中佐, 1889～1936）：  
青地 晨（1909～1984）：  
青山道夫（1902～1978）：  
吾妻京一郎（清水英夫氏のこと, 1922～ [2013]）：  
阿部（真之助）（1884～1964）：  
有沢（広巳）（1896～1988）：  
飯田十郎（小泉三申研究家, 1928～）：  
飯田忠純（? ～?）：  
井ヶ田良治（1926～ [2018]）：  
伊沢孝平（1901～1975）：  
石浜知行（1899～1950）：  
磯崎辰五郎（1898～1990）：  
伊藤孝夫（1962～）：  
猪熊兼繁（1902～1979）：  
今中次麿（1893～1980）：  
岩野英夫（1944～）：  
上田貞次郎（1879～1940）：  
上山安敏（1925～ [2021]）：  
潮木守一（1934～ [2023]）：  
宇野弘蔵（1897～1977）：  
老川 寛（1930～ [2010]）：

大岡昇平 (1909～1988) :  
大澤俊吉 (? ～) :  
大澤龍次郎 (? ～?) :  
大西泰博 (? ～) :  
大村敦志 (1958～) :  
大森 (義太郎) (1898～1940) :  
大山郁夫 (1880～1955) :  
岡田 (啓介) (1868～1952) :  
小野善太郎 (1863～1933) :  
小川知幸 (? ～) :

(か行)

戒能通孝 (1908～1975) :  
加古祐二郎 (1905～1937) :  
加藤雅信 (1946～) :  
金澤理康 (1903～1948) :  
河合栄治郎 (1891～1944) :  
木宮栄彦 (1924～) :  
工藤祐董 (1923～) :  
久保正幡 (1911～ [2010]) :  
熊谷開作 (1920～1990) :  
栗生朝二 (1890～?) :  
栗生鴻之助 (1881～1938) :  
栗生武夫 (1890～1942) :  
栗生藤三 (1883～?) :  
栗生武右衛門 (巖父,1853～1936) :  
小泉策太郎 (小泉三申,1872～1937) :  
小町谷操三 (1893～1979) :

(さ行)

齋藤秀夫 (1904～ [2003]) :  
向坂逸郎 (1897～1985) :  
佐々木惣一 (1878～1965) :  
佐藤 (丑次郎) (1877～1940) :  
佐藤篤士 (とくじ, 1934～2006) :  
実藤恵秀 (さねとう けいしゅう, 1896～1985) :  
斬馬劍禪 (五来欣造 (素川) のことか,1875～1944) :  
柴田光蔵 (1937～ [2022]) :  
清水英夫 (1922～ [2013]) :  
下村海南 (1875～1957) :  
末川 博 (1892～1977) :

末弘巖太郎 (1888～1951) :  
杉浦 (重剛) (1855～1924) :  
杉本寛一 (? ～?) :  
関口安義 (1935～ [2022] ) :  
世良晃志郎 (1917～1989) :  
千賀鶴太郎 (1857～1929) :

(た行)

高窪 (喜八郎) (1873～1963) :  
高柳眞三 (1902～1990) :  
瀧川春雄 (1918～1979) :  
瀧川幸辰 (1891～1962) :  
瀧澤栄治 (1954～) :  
竹下 賢 (1946～ [2018] ) :  
伊達秋雄 (1909～1994) :  
田中周友 (1900～1996) :  
田村徳治 (1886～1958) :  
恒藤 恭 (1888～1967) :  
角田猛之 (1954～ ) :  
寺田寅彦 (1878～1935) :  
鳥海安治 (? ～?) :

(な行)

中川善之助 (1897～1975) :  
中田 薫 (1877～1967) :  
鍋島高明 (1936～ [2021] ) :  
西村重雄 (1943～ ) :  
西本 穎 (1904～1982) :  
仁保亀松 (1868～1943) :  
野村平爾 (1902～1979) :

(は行)

橋本文雄 (1902～1934) :  
(長谷川) 如是閑 (1875～1969) :  
長谷川光太郎 (1888～1978) :  
服部四郎 (1908～1995) :  
埜 浩 (1925～2002) :  
馬場恒吾 (1875～1956) :  
林 純平 (? ～?) :  
原田慶吉 (1903～1950) :  
春木一郎 (1879～1944) :  
土方成美 (1890～1975) :

日高久志 (? ~?) :  
平井一雄 (1935~ ) :  
平野 (義太郎) (1897~1980) :  
広川禎秀 (1941~ ) :  
廣濱嘉雄 (1891~1960) :  
淵 定 (淵, 1909~1944) :  
船田享二 (1898~1970) :  
細川亀市 (1905~1962) :  
堀米庸三 (1913~1975) :  
本位田祥男 (1892~1978) :

(ま行)

牧野英一 (1878~1970) :  
松枝保二 (? ~?) :  
松尾尊兌 (1929~ [2014] ) :  
三木 清 (1897~1945) :  
水本 浩 (1920~1999) :  
三成美保 (1956~ ) :  
三戸 壽 (1908~1971) :  
三戸綾子 (三戸壽氏御令室, ? ~?) )  
峯村光郎 (1906~1978) :  
美濃部達吉 (1973~1948) :  
宮沢俊義 (1899~1976) :  
宮本又次 (1907~1991) :  
森口 (繁治) (1890~1940) :

(や行)

矢田挿雲 (1882~1961) :  
山木戸克己 (1901~2003) :  
山本安之助 (? ~1950) :  
横田喜三郎 (1896~1993) :

(わ行)

我妻 栄 (1897~1973) :  
和田 徹 (? ~ ) :

(外国人)

イエーリング (1818~1892) :  
ゼッケル (1864~1924) :  
ゾーム (1841~1917) :  
ドラコー (前 7 世紀末) :



ハムラビー（前 1792～前 1750,又は前 1728～前 1686）：  
ヒットラー（1885～1945）：  
モーゼ（前 13 世紀頃）：  
モルガン（1867～1943）：  
ルーズベルト（フランクリン,1882～1945）：  
戴炎輝（1908～1992）：  
胡長清（1900～1988）：  
沈大明（? ～）：  
曾華松（? ～）：

### 〔補遺〕

（以下は『四訂稿』（同輯より栗生武夫先生単独冊子、平成 10（1998）年 2 月 15 日刊）の「メモ」等にあつて、『五訂稿』（平成 15（2003）年 9 月 1 日刊）、『六訂稿』（平成 19（2007）年 1 月 1 日刊）には記載のない人物（頁数は『四訂稿』のもの。）。）

### （邦人）

#### （あ行）

阿部次郎（1883～1959）：48  
天野敬太郎（1901～1992）：115  
石田文次郎（1892～1979）：96,100  
井上直三郎（1888～1933）：92  
大石義雄（1903～1991）：（14）  
大村清一（1892～1968）：92,98  
小栗栖国道（1888～1931）：92  
小島祐馬（1881～1966）：72

#### （か行）

片岡輝夫（1924～〔2011〕）：98  
勝本正晃（1895～1993）：97  
木村亀二（1897～1972）：99  
木村静子（1927～）：98  
忽那 寛（? ～1980, 享年 68）：86  
久禮田益喜（1893～?）：99  
栗生キヨ子（栗生武夫先生御令室,? ～?）：81,83  
小林 宏（1931～）：（10）,（11）

#### （さ行）

実方正雄（1905～1986）：96,100  
末松生子（末松謙澄子爵（1855～1920）夫人,伊藤博文（1841～1909）令嬢,1868～1934）：

左右田喜一郎 (1881～1927) : 101

(た行)

田岡良一 (1898～1985) : 98

高橋進太郎 (1902～1984) : 76

溜池良夫 (1921～ [2014] ) : 108

(な行)

中澤巷一 (1930～ ) : (10)

(重複) 西村重雄 (1943～ ) : (3)

西村捨也 (1903～ ) : 115

(は行)

原田一明 (1958～ ) : (20)

藤田平太郎 (男爵, 1869～1940) : 70

(ま行)

牧 英正 (1924～ [2018] ) :

増田四郎 (1908～1997) : 45

宮本英雄 (1888～1973) : 92,94

村 教三 (1904～1998) : 76

(や行)

柳瀬良幹 (1905～1985) : 79

米田庄太郎 (1873～1945) : 101

(外国人)

コシャーカー (1879～1951) : 93,98

デュギー (1859～1928) : 101

ブラフォード (? ～? ) : (2)